

授業科目	国語表現		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	1年次前期	清水 徳典
教育目標	看護実践に欠くことができない、送り手としての表現力を学ぶ。		
教 育 内 容	1 表現の基礎 2 読解力 3 意見文の書き方 4 レポート、報告文の書き方 5 話し方の基本 1) 自己紹介 2) 報告の仕方 3) 敬語の使い方		
評価	筆記試験		
教科書・参考書			

授業科目	英 語		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	1年次前期	山崎 香織
教育目標	1 国際化社会に対応できるよう、英語を通して幅広い興味を持ち、他国の文化や日本の文化を理解する能力を養う。 2 医学や看護で用いられる英単語を学び、医療現場での基本的な英会話力を養う。		
教 育 内 容	1 単語 身体を表す言葉 薬、病気 お医者さん 科目名 2 病気を訴える 一般的な症状 風邪かな おなかの病気 痛みを伴う病気 歯が痛んだら けがの病気 3 診察 診察してもらおう お見舞いにいこう 歯医者さんと患者 難しい単語を覚えよう		
評価	筆記試験		
教科書・参考書			
新 病気になっても困らない英会話 南雲堂			

授業科目				人間関係論			
単位	時間	開講時期	担当講師名				
1	15	1年次前期	鬼原 明子				
教育目標	人間の行動の法則性を学び、自己および看護の対象である人間を理解し、人間関係を円滑に保つ必要性和方法について学ぶ。						
教 育 内 容	1 人間関係のとらえ方 2 知覚と心理的環境（錯覚等） 3 錯覚（錯視） 4 性格分類法 5 言語的・非言語的コミュニケーション 6 面接技法 7 社会心理学（ドライバーチェック） 8 自己理解（投影法） 9 傾聴技法 10 感情の表現方法 怒りと付き合う 11 欲求の階層と防衛規制						
評価	筆記試験						
教科書・参考書等							
系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院							

授業科目				人間関係論演習			
単位	時間	開講時期	担当講師名				
1	30	1年次後期	鬼原 明子				
教育目標	人間関係論で学んだことを実際に体験し、コミュニケーション能力を高める。カウンセリングの基礎的技法を学ぶ。						
教 育 内 容	1 スクイグル（MSSM） 投影描画法 2 性格分類 価値観の自己点検 3 自己尊重トレーニング 自己覚醒 4 SET 認知の変容 認知行動療法 SET 認知の変容 自己受容 5 こころの基本的権利 こころの健康（リラクゼーション） 6 DV（デートDV） 児童虐待 7 交流分析 エゴグラム ロールプレイ 8 終末期の人間関係 9 行動心理学 10 自己カウンセリングとアサーティブトレーニング 11 人間発達のプロセス 12 エンパワメントの意義 セルフヘルプグループの広がり 13 看護に生かす人間関係論						
評価	筆記試験 演習態度 提出物						
教科書・参考書等							
系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院							

授業科目		看護と教育		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	15	1年次前期	大島 尚文	
教育目標	教育にかかわる基本的事項や学校教育をはじめとする教育の今日的課題について学び、看護における教育的役割と生涯学習の意義について考察する。			
教 育 内 容	<p>1 社会の中の教育と看護／教育とはなにか －「教育」の概念 本授業の授業概要、基本概念について学ぶ。</p> <p>2 教育の対象 －子ども観と発達 大人への成長過程である子どもにどうはたらきかけるか考える。</p> <p>3 社会変動と教育／教育の組織化－学校 教育の観点から見た日本の社会の現状と学校教育について考える。</p> <p>4 教授 －人を教えるということ 学校教師を例に、看護と比較しながら「教える」ことについて考える。</p> <p>5 養護 －教育の受け手を見守る 看護の観点から、学校現場の「養護」について考える。</p> <p>6 教育の目標と評価 様々な評価の方法と意義について学ぶ。</p> <p>7 現代教育の課題／生涯教育 教育が抱える今日的課題と生涯にわたって学び続けることの大切さについて学ぶ。</p>			
評価	筆記試験			
教科書・参考書等				
系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院				

授業科目		家政学		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	15	1年次前期	米田 康子	
教育目標	人間生活の仕組やそこに営まれる衣・食・住に関する基礎知識を学び、看護に活用できることを目指す。また相手を尊重した対応ができるための基本的な礼儀作法の必要性と方法を知る。			
教 育 内 容	<p>1 生活経営</p> <p>1) 家族とは (1) 家族とは (2) 介護と家族関係 (3) 家族と法律</p> <p>2) 生活史 (1) 高齢者の生活史 (2) 高齢者のライフストーリー</p> <p>3) 生活時間 (1) 生活時間</p> <p>4) 家計 (1) 生活設計 (2) 高齢者の家計 (3) 物価 (4) 高齢者の消費者問題</p> <p>5) 社会的ネットワーク (1) 家族介護者支援 (2) 家族・地域・社会を超えて</p> <p>6) 生活福祉情報</p> <p>2 食生活</p> <p>1) 食生活と栄養 2) 献立と調理 3) 食環境の管理と配慮</p> <p>3 被服生活</p> <p>1) 被服の役割と機能 2) 被服の素材 3) 高齢者・障害者の被服 4) 家計被服の管理・収納 5) 社会的ネットワーク法制の基礎と被服の修繕</p> <p>4 住生活</p> <p>1) 住まいの役割と機能 2) 生活空間 3) 高齢者・障害者の被服障害者の住まいの工夫 4) 家計暮らしやすい生活環境づくり</p>			
評価	筆記試験			
教科書・参考書等				
福祉のための家政学 建帛社				

授業科目		理科総合		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	15	1年次前期	岡部 英孝	
教育目標	人間の体のしくみ、生活、病気を理解する基礎的知識を養う。看護実践の理論的根拠を理解するための基礎を学ぶ。			
教 育 内 容	1 固体の成り立ち－分化 2 細胞生理－原形質の構成と働き 3 生体内の物質の流れと働き 4 からだの恒常性の維持 5 外的刺激の受容 6 力 1) 重力と重心 2) ベクトル 3) 力のモーメントとてこ 7 圧力 1) 大気圧 2) 血圧測定 3) 呼吸のしくみ 8 熱 1) 温度の単位 2) 熱の伝わり方 3) エネルギー保存の法則 9 人体を構成する元素 10 溶液とコロイド 1) 溶液 2) 溶液の濃度 3) コロイド溶液 4) 浸透圧 5) 透析 11 化学反応 1) 化学反応と熱 2) 酸・塩基 3) 水素イオン濃度 4) 緩衝液			
評価	筆記試験			
教科書・参考書等 看護学生のための物理学 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 化学 医学書院 看護学生プレトレーニング メヂカルフレンド社				

授業科目		情報科学		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	30	1年次前期	坂尻 富信 他 技師	
教育目標	1 高度情報化社会に対応できるように、情報科学の基礎を学ぶ。 2 看護における情報処理の基礎的技法を学ぶとともに、情報をもとに科学的に思考する能力を身につける。			
教 育 内 容	1 Windowsの基礎知識 マウスの操作、起動と終了、画面構成、基本操作 Windowsの基礎知識 起動と終了、画面構成、ファイル操作、文字入力、 短文練習・文書作成 表作成 クリップアートの挿入 文書作成練習 2 Excelの基礎知識 データ入力、修正 数式の入力、数式の再計算 データの編集、 オートフィルの利用 関数の入力 データの修飾			
評価	実技 授業態度			
教科書・参考書等 できるWindows 10 インプレス				

授業科目		看護と情報		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	15	1年次後期	森下 毅	
教育目標	1 看護情報を含む医療情報全般の特徴、活用時のポイント、医療現場における実践的な取り組み等について学ぶ。 2 医療・看護情報を有効に扱うリテラシーについて学ぶ。			
教 育 内 容	1 情報と情報社会 1) 情報とは 2) 情報の特性 2 保健医療における情報 1) 情報社会の成立と発展 2) 情報社会で求められること 3 情報と倫理 1) 医療における情報 2) 看護における情報			
評価	筆記試験			
教科書・参考書等				
系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院				

授業科目		倫理学		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	30	1年次後期	村中 達矢	
教育目標	人々の多様な価値観を認識し、人権の重要性について理解し、人権意識の普及・高揚をはかることができる。			
教 育 内 容	1 倫理学とは 2 生命倫理 3 価値観と人権の重要性 4 専門職としての倫理 5 道徳的ジレンマと倫理的課題 6 終末期医療 7 臓器移植			
評価	筆記試験			
教科書・参考書等				
看護学生のための医療倫理 盛永 審一郎（著） 丸善出版				

授業科目	能登の自然と文化		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	1年次前期	和田 学・中道 雄太郎・北原 隆義
教育目標	能登地域で生活する人々や環境、文化を理解する。		
教 育 内 容	<p>のと里山里海ミュージアム館長 和田学</p> <p>1 能登半島の歴史と文化</p> <p>2 七尾城と長谷川等伯</p> <p>3 施設見学（のと里山里海ミュージアム）</p> <p>4 西湊地域づくり協議会について 中道 雄太郎</p> <p>1) 七尾市地域づくりについて</p> <p>2) 西湊地域づくり協議会活動内容（年間行事）</p> <p>5 山の寺寺院について（市民の憩いの場としての役割） 北原 隆義</p> <p>6 山の寺寺院めぐり1</p> <p>7 山の寺寺院めぐり2</p>		
評価	提出物 授業態度		
教科書・参考書等			

授業科目	レクリエーション概論		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	1年次後期	下川紀美子
教育目標	レクリエーション活動の楽しさ心の元気づくりを理解し、レクリエーションの役割を学ぶ。		
教 育 内 容	<p>1 レクリエーションの主旨、支援の目的</p> <p>2 レクリエーションの楽しさや参加者の元気づくり</p> <p>3 コミュニケーションと信頼関係づくり</p> <p>4 信頼関係づくりの方法 ポスピタリティ</p>		
評価	提出物 授業態度		
教科書・参考書等			
<p>楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法</p> <p>公益財団法人 日本レクリエーション協会</p>			

授業科目	保健体育		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	20	1年次前期	野尻 雄二
教育目標	心身のバランスを保ち、健康な生活を送るための体力づくりと健康管理、ならびに健康増進の方法を学ぶ。		
教 育 内 容	1 ゲームを活用した体力づくり（準備体操・ゲーム） 1) バasketボール 2) フットサル 3) ソフトベースボール 4) バドミントン 5) 卓球 6) バレーボール		
評価	実技・筆記試験		
教科書・参考書等			

授業科目	初年次セミナー		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	1年次前期	青木 洋子
教育目標	看護学生としての自覚を持ち、専門学生としての学び方、スキルを身に付ける。		
教 育 内 容	1 学校生活の過ごし方 1) 同級生との交流を通し、学校生活に向けての不安・心配を解決するための方法 2) 上級生との交流を通し、看護学校での学習方法を解決するための方法 3) ボランティアについて 2 看護学生と個人情報 1) 情報リテラシーと法律 3 信頼される接遇 1) 実習時のマナーとコミュニケーション 2) はがきの書き方とマナー 4 看護学生と健康生活 1) 望ましい睡眠習慣 2) 薬物乱用防止（精神面の健康も含む） 5 課題解決学習（演習） 1) 効果的なグループワーク 2) レポートの書き方 3) 文献検索法 4) プレゼンテーション		
評価	提出物 授業態度		
教科書・参考書等			

解剖生理学 I			
授業科目	時間	開講時期	担当講師名
1	30	1年次前期	八田 稔久
教育目標	正常な人体の発生と形態、ならびに各器官の構造について学ぶ。		
教 育 内 容	1 人体の構造と機能を学ぶために 2 解剖生理学を学ぶための基礎知識 3 体の支持と運動 4 循環器系の構成 1) 心臓 2) 末梢循環系の構造 3) リンパとリンパ管 5 人体の発生 6 情報の受容と処理 1) 脊髄と脳 2) 脊髄神経と脳神経 3) 脳の高次機能 4) 運動機能と下行伝導路 5) 感覚機能と上行伝導路		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院			

解剖生理学 II			
授業科目	時間	開講時期	担当講師名
1	30	1年次前期	鍛冶 武和・藤田 晋宏・山下 朗・向井 清孝
教育目標	正常な人体の生理機能を学び、生命現象を理解する。		
教 育 内 容	1 解剖生理学を学ぶための基礎知識 2 栄養の消化と吸収 3 呼吸と血液のはたらき 4 血液の循環とその調節 5 体液の調節と尿の生成 6 内臓機能の調節 7 からだの支持と運動 8 情報の受容と処理 9 外部環境からの防御 10 生殖、発生と老化のしくみ		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院			

解剖生理学演習			
授業科目	時間	開講時期	担当講師名
1	15	1年次後期	八田 稔久
教育目標	人体の解剖の見学を通して、人体各組織の位置関係、その働きを理解し、人体の複雑さ精巧さを知り、生命の尊厳に触れる。		
教 育 内 容	1 骨格系 椎骨・胸郭・上肢骨・下肢骨・骨盤・頭蓋骨 2 筋系 表層の筋・胸部の筋・背部の筋・腹部の筋・横隔膜・上腕の筋 前腕の筋・下肢の筋・臀部の筋・骨盤内の筋・アキレス腱 3 神経系 脊髄神経・坐骨神経・橈骨神経・尺骨神経・腋窩神経 脳・髄膜・脳室・正中断面・前頭断面 4 循環器系 心臓・冠状動脈・大動脈・大静脈 5 呼吸器系 鼻咽頭・喉頭・機関・気管支・肺・縦隔 6 消化器系 食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆嚢・脾臓・腹膜および腹膜腔 7 泌尿器系 腎臓・尿管・膀胱・尿道 8 生殖器系 男性生殖器系・女性生殖器系 9 人体の発生 胎児 10 病理標本の見学 骨肉腫・腸重積・馬蹄腎・褥瘡・無脳症など		
評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院			

看護のための解剖			
授業科目	時間	開講時期	担当講師名
1	15	2年次前期	細川 和恵
教育目標	主要な症状の発症メカニズムについて人体の構造と機能の変化を学び、アセスメントの視点や看護援助につなげる。		
教 育 内 容	1. 主要な症状を示す対象者の理解 1) 呼吸に関連する症状を示す対象 ①呼吸機能のメカニズム ②呼吸機能障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム 呼吸困難・咳嗽・喀痰・喘鳴 ③病態関連図の作成 2) 循環に関連する症状を示す対象 ①循環機能のメカニズム ②循環機能障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム 血圧異常・浮腫・易疲労性 3) 栄養や代謝に関連する症状を示す対象 ①栄養・代謝のメカニズム ②栄養・代謝障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム 食欲不振、吐き気、嘔吐、黄疸 4) 排泄に関連する症状を示す対象 ①尿生成・排泄のメカニズム ②排泄障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム 排尿障害・便秘・下痢 5) 運動機能に関連する症状を示す対象 ①運動機能のメカニズム		
評価	筆記試験	提出物	
教科書・参考書等 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門 I 臨床看護学総論 医学書院			

授業科目			
栄養学			
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	1年次前期	前田 美穂
教育目標	人間にとっての栄養の意義と、生体が健康な生活を営むための適正な栄養について学ぶ。		
教 育 内 容	1 人間栄養学と看護 2 栄養素の種類と働き (1) 糖質の栄養作用について (2) 脂肪の栄養作用について (3) タンパク質の栄養作用について (4) 食物繊維の栄養作用について (5) ビタミン類の栄養作用について (6) 無機質の栄養作用について 3 エネルギー代謝 4 栄養素の消化・吸収 栄養素の体内代謝 5 栄養アセスメント 栄養状態の評価・判定 6 ライフステージと栄養 乳児、幼児、学童、青年期、成人期、老年期		
	評価	筆記試験	授業態度 提出物
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門基礎 栄養学 医学書院			

授業科目			
生化学			
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	1年次後期	竹上 勉
教育目標	人体を構成している物質と代謝、生命活動を行うための物質の働きについて学ぶ。		
教 育 内 容	1 生体の成り立ちと生体分子、同化と異化 1) 生体の成り立ち 2) 生体で起きている化学反応 2 酵素の性質と働き 3 生体内における炭水化物（糖質）の代謝 4 生体内における脂質の代謝 5 生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝 6 生体内における核酸の代謝、遺伝情報 7 生体の内部環境、ホメオスタシス 体液、ビタミン		
	評価	筆記試験	
教科書・参考書等			
わかりやすい生化学 第4版 石黒伊三雄 監修 NOVELLEHIROKAWA			

薬理学			
授業科目	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次前期	中島 登
教育目標	薬物の特徴と作用機序・人体への影響について理解すると共に、薬物管理の原則と方法について学ぶ。		
教 育 内 容	【薬理学総論】 1 総論 1) 薬物治療のめざすもの 2) 薬はどのように作用するのか 3) 薬はどのように体内をめぐっているのか 4) 薬効に影響する因子 5) 薬物中毒はなぜおこるのか 6) 薬の管理と新薬の誕生		
	【薬理学各論】 1 抗感染症薬 2 抗がん薬 3 免疫治療薬 4 抗アレルギー薬・抗炎症薬 5 末梢での神経活動に作用する薬 6 中枢神経系に作用する薬 7 心臓・血管系に作用する薬物 8 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 9 物質代謝に作用する薬物 10 皮膚科用薬・眼科用薬 11 救急の際に使用される薬物 12 漢方薬 13 消毒薬		
評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院			

微生物学			
授業科目	時間	開講時期	担当講師名
1	30	1年次前期	市川 秀隆・大桑 孝子
教育目標	微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、感染予防や安全対策などの対策を学ぶ。		
教 育 内 容	1 微生物と微生物学 2 細菌の性質 3 真菌の性質 4 原虫の性質 5 ウイルスの性質 6 感染と感染症 7 感染に対する生体防御機構 8 感染源・感染経路からみた感染症 9 感染症の予防 10 感染症の検査と診断 11 感染症の治療 12 感染症の現状と対策 13 病原細菌と細菌感染症 14 病原真菌と真菌感染症 15 病原原虫と原虫感染症 16 おもなウイルスとウイルス感染症		
	評価	筆記試験	
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門基礎 微生物学 医学書院			

授業科目		治療論 I		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	30	2年次後期	中村 耕一郎 ・ 神野 正隆 ・ 松井 優子	
教育目標	健康回復に必要な手術療法の概要、内視鏡治療、化学療法の目的、生体に及ぼす影響を学ぶ。			
教育内容	【手術療法】 1 手術療法 2 麻酔科の役割 3 麻酔に必要な生理学 4 麻酔前の評価（術前管理） 5 麻酔法 全身麻酔法 局所麻酔法 6 呼吸管理 7 循環管理			
	【内視鏡治療】 1 内視鏡治療 1) 内視鏡治療とは 2) 内視鏡治療の目的 3) 消化管出血に対する止血術 4) 内視鏡的粘膜切除術 【化学療法】 1 化学療法とは 2 がん化学療法の基礎知識 3 抗がん剤の安全な取扱い方、安全な投与 4 血管外漏出の予防と対処 5 抗がん薬によるおもな有害作用と対策 6 自立への支援			
評価	筆記試験			
教科書・参考書等 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 新体系看護学全書（別巻）治療論概説 メジカルフレンド 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 医学書院				

授業科目		治療論 II		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	30	2年次後期	山下 勝・清水 裕美・井舟 正秀・川上 直子・木村 聖子	
教育目標	健康回復に必要な放射線療法・食事療法・リハビリテーションの概要と目的、生体に及ぼす影響を学ぶ。			
教育内容	【放射線療法】 1 放射線医学序論 2 X線診断について C Tの基本 MR Iの基本・診断 安全管理 3 血管造影について 4 I V Rの実際 5 MR I検査について 6 超音波診断について 7 核医学検査の基本 8 放射線治療の基礎 【食事療法】 1 食事と食事療法の目的 2 病人食の特徴と種類 3 循環器疾患患者の栄養食事療法 4 消化器疾患患者の栄養食事療法 5 腎疾患患者の栄養食事療法 6 栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法 7 貧血、術前・術後、高齢者の栄養管理			
	【リハビリテーション】 1 理学療法概論 2 理学療法各論 脳血管障害・運動器・呼吸器・心臓リハビリテーション 3 作業療法概論 4 作業療法各論 精神科領域・高次脳機能障害・がんのリハビリテーション 日常生活動作とリハビリテーション 5 言語療法概論 6 言語療法各論 構音障害・失語症・高次脳機能障害・難聴・摂食嚥下障害 7 義肢・装具			
評価	筆記試験			
教科書・参考書等 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション 医学書院				

病態疾病論総論			
授業科目	時間	開講時期	担当講師名
1	15	1年次後期	三林 裕
教育目標	病因の成り立ちについて学び、病態疾病論の基礎とする。		
教育内容	<p>【病理学概論】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 病気の原因 2 先天異常と遺伝子異常 3 代謝障害 4 循環障害 5 炎症と免疫、膠原病 6 感染症 7 腫瘍 8 変性 9 過形成 10 萎縮 11 老化と死 		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
	系統看護学講座	専門基礎分野	病態生理学 医学書院

病態疾病論 I (感覚障害)			
授業科目	時間	開講時期	担当講師名
1	30	1年次後期	清水ふき・荒井美奈子・坂田 医師・耳鼻科医師
教育目標	疾患の病態生理と検査・治療について学び、各看護学の基礎とする。		
教育内容	<p>【眼科疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 眼の構造と機能 2 症状とその病態生理 3 検査と治療 視力視野 眼球運動の検査法 光凝固・硝子体手術看護 角膜移植手術の看護 点眼投与 4 疾患の理解 白内障 5 疾患看護 視力・視野障害の看護 <p>【皮膚科疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 皮膚の構造と機能 2 症状とその病態生理 3 検査と治療・処置 4 疾患の理解 <p>【耳鼻咽喉科疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 耳鼻咽喉・頸部の構造と機能 2 症状とその病態生理 3 検査 聴力検査 平衡感覚検査 嗅覚・味覚検査法 4 主な治療 耳の処置 鼻の処置 咽喉頭の処置 5 疾患の理解と看護 外耳炎 耳垢塞栓 中耳炎 メニエール病 突発性難聴 顔面神経麻痺 鼻出血 鼻アレルギー 副鼻腔炎 咽喉頭疾患 6 手術と看護 鼓室形成術の看護 副鼻腔手術の看護 		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	皮膚 医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	眼 医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	耳鼻咽喉 医学書院

授業科目	病態疾病論Ⅱ（消化、吸収、代謝障害）		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	1年次後期	能登 正浩・高井優輝・真智 俊彦・神野 正康
教育目標	疾患の病態生理と検査・治療について学び、各看護学の基礎とする。		
教 育 内 容	【消化器疾患】		
	1	消化器の構造と機能	
	2	症状・徴候とその病態生理	
	3	消化器疾患の症状・徴候（嚥下困難、嘔吐、腹痛、下痢、便秘）	
	4	肝臓疾患に特有の症状・徴候（黄疸、腹水、肝性脳症）	
	5	肝機能検査と治療・処置 肝機能検査・肝生検 インターフェロン療法時の生活指導 食道静脈瘤硬化療法・肝切除後の合併症予防と生活指導 胆嚢摘出術の合併症予防 胆汁ろうの管理と指導 肝庇護の生活指導 人工肛門造設術後の合併症予防と生活指導	
	6	食道・胃、腸の疾患 食道がん、胃・十二指腸潰瘍、胃がん、過敏性腸症候群 大腸癌、肛門疾患	
	7	肝臓、胆嚢、膵臓の疾患 肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、肝がん、膵炎、胆石症、急性腹症	
	【内分泌・代謝疾患】		
	1	2	視床下部、下垂体ホルモン
3	4	甲状腺・副甲状腺疾患	
5	6	糖尿病	
7	8	尿酸代謝	
【歯・口腔疾患】			
1	歯・口腔の構造と機能		
2	主な症状とその病態生理 口腔症状 顎口腔機能障害：咀嚼障害・嚥下障害・味覚障害・言語障害		
3	歯科疾患における検査と治療 齲蝕の治療、歯周疾患の治療、抜歯・舌切除術後の生活指導 高齢者の治療		
4	歯科疾患 歯の異常と疾患 歯周組織の疾患 口腔粘膜の疾患・口腔領域の悪性腫瘍		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ 消化器	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ 内分泌	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ 歯・口腔疾患	医学書院

授業科目	病態疾病論Ⅲ（運動、認知機能障害）		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次前期	東 壮太郎・阿部 健作・木元 一仁
教育目標	疾患の病態生理と検査・治療について学び、各看護学の基礎とする。		
教 育 内 容	【運動器疾患】		
	1	運動器の構造と機能	
	2	症状とその病態生理 疼痛 形態異常 関節運動の異常 神経の障害	
	3	診断・検査と治療・処置 筋周径の計測法 徒手筋力検査法 ミエログラフィ時の援助 固定法・牽引法 ギプス固定・各種牽引療法 骨折時の観血的整復術 人工関節置換術 四肢切断・再接着術	
	4	疾患の理解 姿勢・運動に関わる骨・関節・筋肉の疾患 骨折 脱臼 捻挫および打撲 神経損傷 筋・腱・靭帯などの損傷 骨・関節の炎症（骨髄炎、骨・関節結核） 変形性関節症 関節リウマチ 痛風 骨腫瘍 筋および腱の疾患 神経の疾患 脊椎の疾患 下肢及び下肢帯の疾患	
	【脳神経疾患】		
	1	脳神経の構造と機能	
	2	症状とその病態生理 意識障害、高次脳機能障害、運動機能障害、感覚機能障害、 反射性運動機能障害、頭蓋内圧と脳ヘルニア、髄膜刺激症状、頭痛	
	3	検査・診断と治療・処置 髄液検査、脳血管造影、脳血腫・腫瘍・脳動脈瘤摘出術の看護	
	4	疾患の理解 1) 脳血管系の循環障害 : 脳血管障害 2) 脳頭蓋内圧亢進を伴う疾患 : 脳腫瘍 3) 神経変性・脱髄性の疾患 : 脊髄疾患、末梢神経障害、 神経・筋疾患脱髄・変性疾患 4) 微生物の中枢神経への感染 : 脳神経系の感染症（脳炎・髄膜炎） 5) 頭部の外傷、2次的に意識障害・神経障害を起こす疾患	
【難病】			
1	筋萎縮性側索硬化症		
2	もやもや病		
3	重症筋無力症		
4	パーキンソン病		
5	難病対策		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ 脳・神経	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ 運動器	医学書院

授業科目 病態疾病論Ⅳ（調節・生体防御機能障害）			
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次前期	北村 勝・山崎 雅英・安井 正英
教育目標 疾患の病態生理と検査・治療について学び、各看護学の基礎（ヘルスアセスメントの理解）とし、看護実践能力を高める。			
教 育 内 容	【アレルギー・膠原病】 1 アレルギー 1) アレルギー反応とその機序 2) 症状 3) アレルギー疾患 2 膠原病 1) 自己寛容とその破綻 2) 自己免疫疾患 3) 症状 5) 検査と治療 5) 疾患：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、膠原病		
	【血液・造血器疾患】 1 血液のしくみと造血のしくみ 2 症状とその病態生理 貧血、脾腫、リンパ節腫脹、出血性素因、白血球増加、減少症 3 検査と治療 1) 検査 2) 化学療法 3) 造血幹細胞移植 4) 血液疾患に合併する感染症とその対策 5) 血液疾患に合併する出血とその対策 4 疾患の理解 1) 貧血 2) 白血病 3) 悪性リンパ腫 4) 異常タンパク血症 5) 出血性疾患 6) 血液疾患に合併する出血とその対策		
	【呼吸器疾患】 1 呼吸器の構造と機能 呼吸器の構造、呼吸器の担う機能 2 呼吸機能検査 3 肺炎 4 間質性肺炎 5 間質性肺疾患 6 結核 7 肺腫瘍 8 気道疾患 9 気管支喘息 10 肺塞栓症 11 慢性閉塞性疾患 12 過換気症候群 13 睡眠時無呼吸		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 医学書院			

病態疾病論Ⅴ（循環、排泄機能障害）			
授業科目	単位	時間	開講時期
	1	30	2年次前期
	担当講師名 西澤 永晃 ・ 吉村 光弘 ・ 医師		
教育目標	疾患の病態生理と検査・治療について学び、各看護学の基礎とする。		
教育内容	<p>【循環器疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 心臓血管の解剖生理 心臓一刺激伝導系 不整脈 虚血性心疾患 弁膜症 心膜疾患 心不全 心筋疾患 心臓腫瘍 動脈疾患 静脈疾患 リンパ系疾患 <p>【腎・泌尿器疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 腎・泌尿器の構造と機能、男性生殖器の構造と機能 症状とその病態生理 <ol style="list-style-type: none"> 水と電解質の異常、尿毒症、疼痛、腫脹 蓄尿・尿排泄障害の程度と原因 検査と治療 腎機能検査、尿流動態検査、膀胱鏡検査、 尿路変更術後の合併症予防と生活指導 腎生検時の援助 透析療法・腎移植 疾患の理解 <ol style="list-style-type: none"> 腎不全、腎・尿路の炎症 腎・尿路の腫瘍 腎・尿路の通過障害 尿路結石症、尿路損傷および異物 男性生殖器の疾患 		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 医学書院			

病態疾病論Ⅵ（精神障害）			
授業科目	単位	時間	開講時期
	1	15	2年次前期
	担当講師名 精神科医師		
教育目標	疾患の病態生理と検査・治療について学び、各看護学の基礎とする。		
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> 精神科で出会う人々 <ol style="list-style-type: none"> 精神をやむことと生きること 精神症状論と状態像 精神障害の診断と分類 精神科での治療 <ol style="list-style-type: none"> 精神科における治療 薬物療法・電気痙攣療法 精神療法 集団精神療法 家族療法 環境療法・社会療法 		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院			

授業科目			
病態疾病論Ⅶ（性、生殖機能障害）			
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	2年次後期	桑原 崇
教育目標			
疾患の病態生理と検査・治療について学び、各看護学の基礎とする。			
教 育 内 容	【女性生殖器疾患】		
	1 女性生殖器の構造と機能 2 症状とその病態生理 3 診察・検査と治療・処置 4 疾患の理解 1) 子宮疾患 2) 卵巣の疾患 3) 乳がん 4) 不妊症 5 母性疾患 1) 妊娠の異常 2) 分娩の異常 3) 産褥の異常		
評価	筆記試験 提出物		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 系統看護学講座		専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ	女性生殖器 母性看護学「2」 母性看護学各論
			医学書院 医学書院

授業科目			
臨床検査			
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	2年次後期	尾田真一
教育目標			
臨床検査を適切に実施するために、臨床検査の役割と臨床検査の流れと臨床検査における看護師の役割を理解する。			
教 育 内 容	1 臨床検査とその役割		
	2 臨床検査の流れと看護師の役割		
教 育 内 容	3 系統別臨床検査の進め方		
	4 一般検査		
教 育 内 容	5 血液検査		
	6 化学検査		
教 育 内 容	7 免疫・血清検査		
	8 ホルモン検査		
教 育 内 容	9 微生物検査		
	10 病理検査		
教 育 内 容	11 生理機能検査		
評価	筆記試験 提出物		
教科書・参考書等			
系統看護学講座		別巻	臨床検査
			医学書院

授業科目			
総合医療論			
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	1年次前期	神野 正博
教育目標	医学の発達や医療の体型と機能を理解すると共に、医療が担う社会的期待を学ぶ。		
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> 1 医療と看護の原点 <ul style="list-style-type: none"> 1) 倫理 2) QOL 2 医学の歩みと医療観の変遷 <ul style="list-style-type: none"> 1) QOL医療の流れ、歴史、制度 3 私たちの生活と医療 <ul style="list-style-type: none"> 1) 高齢社会 2) ノーマライゼーション 4 技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題 <ul style="list-style-type: none"> 1) 先端医療技術 2) 移植手術 5 成熟する社会と人々の意識変革 <ul style="list-style-type: none"> 1) インフォームドコンセント 2) 医療事故 6 医療を見つめなおす新しい視点 7 健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流 <ul style="list-style-type: none"> 1) 医療の質 		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門基礎 総合医療論 医学書院			

授業科目			
公衆衛生			
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	2年次前期	保健福祉センター職員
教育目標	地域集団における健康保持・増進のための組織的な保健活動を学び、広い視野から看護の役割を理解する。		
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生の理念 2 公衆衛生の技術 3 医療の動向と医療保障 4 公衆衛生と国際化 5 地域保健 6 母子保健 7 学校保健 8 成人・老人保健 9 精神保健 10 難病保健 11 生活環境 12 産業保健 13 感染症・危機管理 		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院			

社会福祉			
授業科目	単位	時間	開講時期
			担当講師名
	1	30	1年次後期 高名 祐美・上田竜也
教育目標	社会福祉と医療・社会保険の関連を理解し、看護活動において社会資源の有効活用する方法を学ぶ。		
教 育 内 容	1 社会福祉の基本的性格 1) 憲法第25条 2) 福祉について 3) ノーマライゼーション 2 生活問題の展開と社会福祉の基本的同行 1) 高齢社会 2) 社会福祉の基本的動向 3 社会保障制度と社会福祉制度 1) 福祉六法 2) 福祉事務所、児童相談所 4 社会保険制度 1) 医療保険制度 2) 年金保険制度 3) 労働者災害補償保険制度 4) 雇用保険制度 5) 介護保険制度 5 社会福祉の分野とサービス 1) 高齢者福祉 2) 障害者福祉 3) ひとり親家庭の福祉 4) 児童福祉 5) 生活保護法 6 社会福祉実践の共通基盤 1) 面接の技能 2) 家庭訪問の技能 7 社会福祉と医療・看護一連携をめぐる課題 1) 包括支援センター 2) 障害者自立支援法について		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門基礎 社会福祉 医学書院			

社会福祉演習			
授業科目	単位	時間	開講時期
担当講師名			
1	15	2年次前期	中川 一美 ・ 宮田 琴江
教育目標	障害者が地域で生活していくための必要な社会資源の活用について事例を通して考え、看護実践に生かせるようにする。		
教育内容	<p>1 介護保険制度</p> <p>1) 第二号被保険者（40～64歳）の介護保険サービス対象の特定疾患</p> <p>2 自立支援給付</p> <p>1) 介護給付</p> <p>2) 訓練等給付</p> <p>3) 自立支援医療</p> <p>4) 装具</p> <p>5) 地域生活支援事業</p> <p>3 高額療養費の自己負担限度額</p> <p>4 身体障害者手帳交付対象となる障害</p> <p>1) 人工透析患者</p> <p>5 年金制度</p> <p>6 生活保護について</p>		
評価	筆記試験 提出物		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門基礎 社会福祉 医学書院			

関係法規			
授業科目	単位	時間	開講時期
担当講師名			
1	15	1年次後期	保健センター職員 ・ 保健師 他
教育目標	保健医療及び看護に関する法令について理解し、看護の業務と責任を学ぶ。		
教育内容	<p>1 法規の概念</p> <p>1) 法の概念 2) 法の分類 3) 衛生法 4) 厚生行政のしくみ</p> <p>2 医事法</p> <p>1) 看護法 2) 医師法・医療法 3) 医療関係資格法</p> <p>4) 保健福祉関係資格法 5) 医療を支える法</p> <p>3 保健衛生法</p> <p>1) 地域保健法 2) 健康増進法</p> <p>3) 分野別保健法 4) 感染症の関する法 5) 食品に関する法</p> <p>4 薬務法</p> <p>1) 薬事法 2) 薬物など</p> <p>5 環境衛生法</p> <p>1) 営業 2) 環境整備</p> <p>6 社会保険法</p> <p>1) 費用保障 2) 年金と手当</p> <p>7 福祉法</p> <p>1) 共通の福祉</p> <p>8 労働法と社会基盤整備</p> <p>1) 労働法</p> <p>9 環境法</p> <p>1) 環境保全の基本法 2) 公害の防止法 3) 自然保護法</p>		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令 医学書院			

授業科目	衛生統計		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	3年次後期	櫻井 勝
教育目標	国民衛生の現状と動向について知り、人々の健康上の課題を理解する。		
教育内容	<p>【衛生の主要指標】</p> <p>1 人口静態 1) 全国人口の動向 2) 将来推計人口 3) 世帯数の動向</p> <p>2 人口動態 1) 出生 2) 死亡 3) 妊産婦死亡 4) 死産 5) 周産期死亡 6) 乳児死亡 7) 婚姻と離婚</p> <p>3 生命表 1) 平均余命 2) 死因分析</p> <p>4 健康状態と受療状況 1) 健康状態 2) 受療状況</p>		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
国民衛生の動向		厚生統計協会	

授業科目	看護学概論		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	1年次前期	青木 洋子・中前 佐知子
教育目標	看護全般の概念を理解し、看護の本質と、保健・医療・福祉における看護の位置づけや役割の重要性を学ぶ。		
教育内容	<p>1 看護への導入 1) 専門職としての看護師 2) 看護のねらい</p> <p>2 健康と病気におけるウェルネスの促進 1) 健康の定義</p> <p>3 保健、医療、福祉システム 1) 保健、医療、福祉の概念 2) サービス提供の場</p> <p>4 看護における法的側面 1) 看護実践に関する法律 2) 医療事故における法的責任 3) 医療安全への取り組み</p> <p>5 看護における倫理と価値 1) 看護師の倫理綱領 2) 患者の権利</p> <p>6 看護実践のための理論的根拠 1) 理論の変遷 2) さまざまな看護理論</p> <p>7 看護の対象 1) 統合体としての人間 2) 健康障害をもつ対象の理解</p> <p>8 ライフサイクルと健康 1) 成長・発達概念 2) 各期の健康問題</p> <p>9 看護過程</p> <p>10 看護ケアの基本的役割</p> <p>11 看護における基本的援助技術</p> <p>12 国際看護 1) 国際保健・看護 2) 国際交流と協力の現状としくみ</p>		
評価	筆記試験 提出物 授業態度		
教科書・参考書等			
基礎看護学		看護学概論	メディカ出版

看護技術Ⅰ演習			
授業科目	単位	時間	開講時期
	2	45	1年次前期
	担当講師名 細川 和恵・前田 薫・森川 直子・山本瑠莉子		
教育目標	看護技術の基本概念と、あらゆる看護実践の基本となる基本技術についての知識・技術・態度を習得する。		
教 育 内 容	1 看護技術を学ぶにあたって (教育内容1, 2, 3で10時間) 2 コミュニケーションの技術 1) コミュニケーションの意義と目的 2) コミュニケーションの構成要素と成立過程 3) 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4) 効果的なコミュニケーションの実際 5) コミュニケーション障害への対応 3 学習支援の技術 1) 学習支援の対象者と看護の役割 2) 学習の基礎知識 3) 学習支援の基礎知識 4) 学習支援の技術 5) 学習支援の実際 4 観察技術 (教育内容4, 5, 8で20時間) 1) 一般状態のアセスメントと評価 (バイタルサイン測定) 2) 系統的なフィジカルアセスメントの実際 5 感染予防の技術 1) スタンダードプリコーション 2) 手洗い、個人防護用具の使用法 3) 感染性廃棄物の取り扱い 4) 感染症発生時の対応 5) 針刺し事故防止 6 快適な環境をつくる技術 (15時間) 1) 環境の意義 2) 環境の諸要素 3) 環境のアセスメント 4) 環境調整の援助 7 技術の振り返りと評価 (技術の振り返りは各単元毎で行う) 8 記録・報告		
評価	筆記試験 提出物 授業態度		
教科書・参考書等 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 医学書院 写真でわかる実習で使える看護技術 インターメディアカ			

看護技術Ⅱ演習			
授業科目	単位	時間	開講時期
	2	45	1年次前期
	担当講師名 中田 直美・北谷 美之・花部 浩市		
教育目標	基本的日常生活援助技術について基本的知識・技術・態度を習得する。		
教 育 内 容	1 食生活と栄養摂取の援助技術 (8時間) 1) 食事・栄養摂取の意義 2) 食事・栄養摂取のしくみ 3) 食事・栄養摂取のアセスメント 4) 患者への食事への援助 5) 経腸栄養 2 排泄の援助技術 (10時間) 1) 排泄の意義と援助の基本 2) 排泄のしくみ 3) 排泄のアセスメント 4) 排泄の援助(トイレ・ポータブルトイレ・便器・尿器・おむつ) 5) 排便障害のある患者の援助(便秘・下痢・便失禁) 6) 排尿障害のある患者への援助(頻尿と尿失禁、排尿困難と尿閉) 7) 排泄に関する処置(洗腸・摘便・一時的導尿・持続的導尿) 3 活動・休息の援助技術 (10時間) 1) 活動・運動に影響する要因のアセスメント 2) 体位変換 3) 床上移動 4) 車椅子への移動・移送 5) ストレッチャーへの移動・移送 6) 療養生活におけるレクリエーション 7) 休息・睡眠に影響する要因のアセスメント 8) 睡眠を促す援助方法 4 清潔・衣生活の援助技術 (17時間) 1) 清潔の意義 2) 衣生活の意義 3) 清潔・衣生活のアセスメント 4) 清潔援助 5) 寝衣交換 5 技術の振り返りと評価 (技術の振り返りは各単元毎に行う)		
評価	筆記試験 提出物 授業態度		
教科書・参考書等 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 医学書院 写真でわかる実習で使える看護技術 インターメディアカ			

授業科目			
看護技術Ⅲ演習			
単位	時間	開講時期	担当講師名
2	45	1年次後期	花部 浩市・山本 瑠莉子・森川 直子
教育目標	診療の補助技術について基本的知識・技術・態度を習得する。		
教 育 内 容	<p>1 診察・検査に伴う技術 (12時間)</p> <p>1) 診察検査に伴う看護婦の役割</p> <p>2) 診察・検査時の対象者の心理</p> <p>3) 診察・検査時の看護</p> <p>(1) 診察時の体位</p> <p>(2) 視力、聴力、握力、肺活量測定</p> <p>(3) 尿、便、喀痰、血液採取と検査方法</p> <p>(4) 腰椎穿刺検査 (5) X線検査 (6) CT検査</p> <p>(7) 内視鏡検査 (8) 心電図検査 (9) 超音波検査</p> <p>(10) 核医学検査 (11) 基礎代謝検査 (12) 呼吸機能検査</p> <p>2 治療・処置に伴う技術 (33時間)</p> <p>1) 治療・処置時の看護師の役割と責任</p> <p>2) 治療・処置時の対象者の理解</p> <p>3) 穿刺(胸腔、腹腔、骨髄)</p> <p>4) 洗浄(胃・膀胱)</p> <p>5) 吸引(口腔、鼻腔、気管、胸腔)</p> <p>6) 温罨法・冷罨法</p> <p>7) 酸素吸入</p> <p>8) 包帯法と創傷の管理、消毒法・滅菌・無菌操作</p> <p>9) 薬剤についての知識と取り扱い</p> <p>(1) 薬剤の作用・投与量・投与方法 (2) 薬剤の取り扱い</p> <p>(3) 与薬法(摘便・坐薬) (4) 副作用とその徴候、禁忌</p> <p>(5) 注射法</p> <p>①皮内、皮下、筋肉注射 ②静脈注射法</p> <p>③輸液管理</p> <p>10) 輸血療法</p>		
評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 医学書院 写真でわかる実習で使える看護技術 インターメディアカ			

授業科目			
援助の統合演習			
単位	時間	開講時期	担当講師名
2	60	1年次後期	細川 和恵・山本 瑠莉子
教育目標	1 看護技術の基本概念と、あらゆる看護実践の基本となる基本技術について提供できる能力を身につける。 2 基本的日常生活援助技術について提供できる能力を身につける。		
教 育 内 容	<p>1 基本技術</p> <p>1) コミュニケーション技術</p> <p>2) 感染予防技術</p> <p>3) フィジカルアセスメント</p> <p>4) 環境の調整</p> <p>5) バイタルサイン測定</p> <p>2 日常生活援助技術</p> <p>1) 食事の援助技術 (経管栄養)</p> <p>2) 排泄の援助技術 (浣腸)</p> <p>3) 活動・休息の援助技術</p> <p>4) 清潔・衣生活の援助技術</p> <p>3 診療に伴う技術</p> <p>1) 与薬(経口薬)</p> <p>2) 包帯法</p> <p>4 事例を用いた演習 (2事例を用い演習を行う)</p> <p>1) 痛みのある患者の看護・発熱のある患者の看護</p> <p>(1) シミュレーション</p> <p>(2) 客観的臨床能力試験 (OSCE)</p> <p>(3) リフレクションシートを用いた振り返り</p> <p>①気づく・解釈する・反応する・省察する (リフレクション)</p>		
評価	技術試験	提出物	演習態度
教科書・参考書等 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 医学書院 写真でわかる実習で使える看護技術 インターメディアカ			

授業科目	臨床看護総論		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	1年次後期	中前佐知子・花部浩市
教育目標	健康障害を持った患者の生活とその家族のあり方を理解し、経過や症状、治療に応じた看護を学び、専門分野へと発展させるための基礎とする。		
教育内容	<p>1 患者・家族の理解</p> <p>1) 病気を体験する人の理解 2) 病人を取り巻く家族の理解</p> <p>3) 家族の危機状況への援助</p> <p>2 経過に基づく患者の看護</p> <p>1) 急性期における看護 2) 慢性期における看護</p> <p>3) リハビリテーション期における看護</p> <p>4) 終末期における看護</p> <p>3 心理・社会的課題への援助</p> <p>1) 心理的課題への援助 2) 社会的課題への援助</p> <p>4 治療・処置を受けている患者の看護</p> <p>1) 安静療法を必要とする患者の看護</p> <p>2) 食事療法を必要とする患者の看護</p> <p>3) 薬物療法を必要とする患者の看護</p> <p>4) 運動療法を必要とする患者の看護</p> <p>5 症状のある患者の看護</p> <p>1) 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 呼吸困難・咳嗽・喀痰・喘鳴</p> <p>2) 循環に関連する症状を示す対象者への看護 血圧異常・浮腫・易疲労性</p> <p>3) 栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 栄養摂取が過剰（肥満）、栄養摂取が減少（やせ）、体液バランス</p> <p>4) 排泄に関連する症状を示す対象者への看護 排尿障害、便秘・下痢</p> <p>5) 活動や休息に関連する関連する症状を示す対象者への看護 日常生活の自立困難・廃用症候群・活動耐性低下、不眠</p> <p>6) 安楽に関連する症状を伴う対象者への看護 痛み、吐きけ・嘔吐</p>		
評価	筆記試験 提出物 演習態度		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 新体系 看護学全書（別巻）看護技術の患者への適用 メヂカルフレンド社			

授業科目	看護過程演習		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次前期	細川 和恵・専任教員
教育目標	臨床判断を行うための基礎的能力と看護実践を行うための科学的思考（看護過程）を学ぶ。		
教育内容	<p>1 看護過程の基になる考え方と理論</p> <p>1) 看護過程とは</p> <p>2) 看護過程の変遷</p> <p>2 看護過程の構成要素</p> <p>1) アセスメント</p> <p>2) 看護上の問題（課題）の特定</p> <p>3) 看護計画</p> <p>4) 実施</p> <p>5) 評価</p> <p>6) 事例で学ぶ看護過程の展開</p> <p>3 看護記録</p> <p>1) 看護記録に関する法的規定</p> <p>2) 看護記録の目的と意義</p> <p>3) 看護記録の構成要素</p> <p>4) 看護記録の記載規準</p> <p>4 事例展開</p> <p>1) 肺炎患者の看護</p> <p>2) 糖尿病患者の看護</p>		
評価	筆記試験 提出物 演習態度		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 基礎看護学2 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院 臨地実習要綱と臨地実習ガイダンス			

授業科目		精神看護学概論		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	30	1年次前期	前田 薫	
教育目標	精神保健の基本的な考え方とその具体的な活用、さらに臨床・社会・生活の場でのメンタルヘルスについて理解する。			
教 育 内 容	<p>1 精神看護学で学ぶこと</p> <p>2 精神保健の考え方</p> <p>1) 精神の健康とは</p> <p>2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響</p> <p>3) 心的外傷（トラウマ）と回復</p> <p>4) 精神障害という考え方</p> <p>3 心のはたらきと人格の形成</p> <p>1) 心のはたらき</p> <p>(1)意識と認知機能 (2)感情 (3)学習と行動 (4)知能 (5)心の理論</p> <p>(6)心理的特性をはかる検査</p> <p>2) 心のしくみと人格の発達</p> <p>(1)人格と気質 (2)意識と無意識</p> <p>(3)対象関係論 (4)ライフサイクルとアイデンティティ</p> <p>(5)ボウルビーの愛着理論 (6)コフートの自己心理学</p> <p>(7)「甘え」理論</p> <p>4 関係のなかの人間</p> <p>1) システムとしての人間関係</p> <p>(1)システムとはなにか (2)二者間における2つの関係パターン</p> <p>2) 全体としての家族</p> <p>(1)家族と精神の健康</p> <p>(2)家族の関係性とコミュニケーションに関する研究</p> <p>(3)家族システムという考え方 (4)家族のストレスと感情表出</p> <p>3) 人間と集団</p> <p>(1)集団と個人 (2)グループの活用</p> <p>(3)全体としてのグループ (4)組織をグループとしてみる</p>			
評価	筆記試験	提出物	授業態度	
教科書・参考書等				
系統看護学講座	専門Ⅱ	精神看護学①	精神看護の基礎	医学書院
系統看護学講座	専門Ⅱ	精神看護学②	精神看護の展開	医学書院

授業科目		精神保健		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	15	2年次前期	河元 寛泰・前田 薫	
教育目標	<p>1 精神障害と治療に関わる社会の歴史と文化のつながりを理解する。</p> <p>2 地域で暮らす精神障害者の実際を知り、必要な看護について学ぶ。</p> <p>3 精神保健に関する制度や法的根拠などについて学び、対象の人権の理解と尊重の重要性を理解する。</p>			
教 育 内 容	<p>1 社会の中の精神障害</p> <p>1) 精神障害と治療の歴史</p> <p>2) 日本における精神医学・精神医療の流れ</p> <p>3) 精神障害と文化</p> <p>4) 精神障害と社会学</p> <p>5) 精神障害と法制度</p> <p>2 精神保健福祉活動の展開に必要な知識と技術</p> <p>1) 精神障害の予防のためにー 一次予防 ー</p> <p>2) 早期の対応と地域生活をつなぐためにー 二次予防 ー</p> <p>3) 能力の再構築と再発防止のためにー 三次予防 ー</p> <p>3 地域移行支援の展開</p> <p>1) 長期入院者の地域移行支援の展開</p> <p>2) 高齢精神障害者の地域移行支援の展開</p> <p>3) 早期退院に向けた支援の展開</p> <p>4 地域生活支援の展開</p> <p>1) 精神障害者の地域生活支援の現状</p> <p>2) 精神障害者のニーズに応じた地域生活支援の展開</p> <p>3) 地域生活の中断を防ぐための支援の展開</p> <p>4) 地域における早期支援の重要性と支援の展開</p> <p>5 就労支援事業の実際</p> <p>生活介護・自立訓練・就労移行支援・就労継続支援</p> <p>共同生活援助・相談支援事業所・救護施設</p>			
評価	筆記試験	提出物	授業態度	
教科書・参考書等				
系統看護学講座	専門Ⅱ	精神看護学①	精神看護の基礎	医学書院
系統看護学講座	専門Ⅱ	精神看護学②	精神看護の展開	医学書院
統計看護学講座	別巻	精神保健福祉		医学書院

授業科目		精神看護方法論		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	30	2年次前期	高井 誠一・松本 朋大・病棟看護師	
教育目標		精神に健康障害をもつ患者とその家族の健康上の課題を解決できる能力を習得する。		
教 育 内 容	1 ケアの人間関係 1) ケアの前提 2) ケアの原則 3) ケアの方法 4) 関係をアセスメントする 5) 患者―看護師関係における感情体験 6) 関係の視点からみた困難事例 7) チームのダイナミクス 2 回復を支援する 1) 回復の意味 2) リカバリーのビジョン 3) 治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点 4) リカバリーを促す環境 5) リカバリーを促す方法としてのグループ 6) さまざまな回復のためのプログラム 7) リカバリーのプロセス 3 地域におけるケアと支援 1) 「器」としての地域 2) 地域における生活支援の方法 3) 地域におけるケアの方法と実際 4) 学校におけるメンタルヘルスと看護 5) 職場におけるメンタルヘルスと精神看護 4 入院治療の意味 1) 精神科を受診すること 2) 治療の器としての病院・病棟 3) 入院中の観察とアセスメント 4) ケアの方向性を考える 5) 退院に向けての支援とその実際 5 身体をケアする 1) 精神科における身体ケア (1) 精神の健康とマネジメント 2) 精神科における身体を通じた看護ケアの実際 3) 精神科の治療に伴う身体ケア (1) 電気けいれん療法 4) 身体合併症のアセスメントとケア 5) 精神科における終末期ケア 6 安全をまもる 1) リスクマネジメントの考え方と方法 2) 緊急事態に対処する 3) 緊急事態とスタッフの支援 7 医療の場におけるメンタルヘルスと看護 1) 身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス 2) リエゾン精神看護とその活動 3) リエゾンナースの活動と実際 4) 看護師のメンタルヘルスへの支援 8 災害時のメンタルヘルスと看護 1) 災害時における心のケア 2) 災害にみまわれた人の心理とケア 3) 支援者のメンタルヘルス 9 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス			
	評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院				

授業科目		精神看護方法論演習		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	20	2年次後期	前田 薫	
教育目標		1 精神障害のある対象の健康課題を明確化するプロセスを理解し、看護過程を展開する視点が理解できる。 2 S S Tの基本モデルや心理教育におけるグループアプローチの方法が理解できる。		
教 育 内 容	1 精神障害と看護の実際 1) 精神看護の看護過程 (1) 精神看護の看護過程の概要 (2) 看護過程の各段階 2) 統合失調症事例展開 2 看護展開の実際 1) 関係のアセスメント (1) プロセスレコード 2) アセスメントに必要な技術 (1) コミュニケーション			
	評価	提出物	授業態度	
教科書・参考書等 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院				

授業科目	暮らしを支える看護Ⅰ		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	1年次前期	北谷 正浩・保健師・北谷 美之
教育目標	人々が地域で暮らし続けることの意義と人々の「暮らし」の根拠としての地域を理解する。		
教 育 内 容	<p>1 暮らすということ</p> <p>1) 人々の誕生から成長、発達、加齢までの各発達段階において生じる健康上の課題と看護援助</p> <p>2) 人々が暮らす地域、生活の場としての特徴と生活者の視点から見た特徴</p> <p>3) 地域の特性（強み・弱み）</p> <p>2 支え合って生きるとは</p> <p>1) 家族・仲間・近隣の人々・学校や職場とのかかわり</p> <p>2) 支え合うとは</p> <p>3 暮らしが健康に与える影響</p> <p>1) 人々の生活習慣・生活圏</p> <p>2) 人々の生活環境：文化的環境・社会的環境・自然環境</p> <p>4 健康に暮らすということ</p> <p>1) あらゆる健康課題やライフスタイルの人々の理解</p> <p>2) 健康の保持増進と疾病を予防するために必要な看護援助</p> <p>3) 日常生活の援助と指導</p> <p>5 地域・在宅看護の意義</p> <p>1) 地域で暮らし続けることの理解</p> <p>2) 人々の「暮らし」の拠点としての地域の理解</p>		
評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤1 医学書院 写真でわかる訪問看護 インターメディアカ			

授業科目	暮らしを支える看護Ⅱ		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	1年次前期	北山 達朗・高名 祐美・日下 さと恵
教育目標	1. 地域に暮らす人々の健康生活に向けた支援と在宅療養者を支える家族について理解する。 2. 地域で暮らす人々の支援に向けて多職種協働の意義と方法を理解する。		
教 育 内 容	<p>1 健康と暮らしを支える看護</p> <p>1) 予防の概念および健康づくりの対策</p> <p>2) 地域包括ケアシステムの必要性和看護の役割</p> <p>3) 自助・互助・共助・公助の意義と役割</p> <p>4) 地域での生活を支える自主グループ・地域組織活動の必要性</p> <p>2 家族を支える看護</p> <p>1) 家族の多様性（文化・慣習・健康観・価値観・生きる力）</p> <p>2) システム理論を用いた家族のとらえ方</p> <p>3) 家族のアセスメント</p> <p>3 ケアを必要とする個人および家族を支えるための専門職及び多職種連携</p> <p>1) 地域で包括的に提供する際の多職種の機能と役割</p> <p>2) 多職種連携・協働の意義と方法</p> <p>3) 個人・家族を中心とした支援での多職種連携の重要性と必要性</p> <p>4) 地域で包括的にケアを提供する際の資源とその活用</p> <p>5) 多職種連携の具体的な方法</p> <p>6) コミュニケーション能力・ケアマネジメント能力</p>		
評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤1 医学書院 写真でわかる訪問看護 インターメディアカ			

授業科目	暮らしを支える看護Ⅲ		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	1年次後期	北谷 美之
教育目標	地域における多様な看護活動の場と役割を理解し、地域・在宅看護にかかわる制度とその活用について学ぶ。		
教育内容	<p>1 地域・在宅看護の実践の場と連携</p> <p>1) さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし</p> <p>2) 地域・在宅看護の実践の場</p> <p>3) 地域・在宅看護における多職種連携</p> <p>2 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用</p> <p>1) 介護保険・医療保険制度</p> <p>2) 訪問看護の制度</p> <p>3) 地域保健にかかわる法制度</p> <p>4) 高齢者に関する法制度</p> <p>5) 障害者・難病に関する法制度</p> <p>6) 公費負担医療に関する法制度</p> <p>7) 権利保障に関連する制度</p>		
評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤1 医学書院 写真でわかる訪問看護 インターメディアカ			

授業科目	地域・在宅看護方法論Ⅰ		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次前期	伊藤 由美・北谷 美之
教育目標	地域で療養生活を送る人とその家族を理解し、在宅看護活動に必要な基本的知識・技術・態度を学ぶ。		
教育内容	<p>1 地域・在宅看護の展開</p> <p>1) 療養の場の移行に伴う看護</p> <p>(1) 外来受診</p> <p>(2) 入院</p> <p>(3) 在宅療養準備期・移行期、退院調整支援</p> <p>2) 在宅療養者の病期における看護</p> <p>(1) 安定期、急性増悪期、終末期、終了期</p> <p>3) 暮らしを支える看護技術</p> <p>(1) コミュニケーション、自己決定、権利擁護</p> <p>(2) リスクとリスクマネジメント</p> <p>(3) 災害看護</p> <p>(4) 家族支援</p> <p>2 地域・在宅看護技術</p> <p>1) 在宅で看護を展開するにあたって</p> <p>(1) 暮らしと健康をアセスメントするための視点</p> <p>(2) 暮らしと健康を支える看護の役割</p> <p>2) 在宅における生活の援助技術</p> <p>(1) 環境・活動に関する援助技術</p> <p>(2) 食事に関する援助技術</p> <p>(3) 排泄に関する援助技術</p> <p>(4) 清潔の援助技術</p> <p>3 地域・在宅看護におけるマネジメントと多職種連携</p>		
評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤1 地域・在宅看護の実践2 医学書院 写真でわかる訪問看護 インターメディアカ			

授業科目	地域・在宅看護方法論Ⅱ		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次後期	高森 真弓・北谷 美之
教育目標	在宅で療養生活を送る人とその家族の看護を理解し、在宅看護活動に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。		
教育内容	<p>1 在宅療養者の病態・病期・障害に応じた看護の実践</p> <p>1) 対象となる主な疾患と看護</p> <p>(1)脳梗塞・リハビリ期の療養者の看護</p> <p>(2)慢性閉塞性肺疾患・急性増悪期の療養者の看護</p> <p>(3)一人暮らしの認知症の療養者の看護</p> <p>(4)筋萎縮性側索硬化症・人工呼吸器装着期の療養者の看護</p> <p>(5)膵臓がん・終末期の療養者の看護</p> <p>2 暮らしの場での医療処置</p> <p>1) 医療処置に伴う生活行動支援</p> <p>(1)在宅における感染防止技術</p> <p>(2)在宅酸素療法</p> <p>(3)尿道留置カテーテルの管理</p> <p>(4)消化器ストーマケア</p> <p>(5)褥創ケア</p> <p>(6)経管栄養法・在宅中心静脈栄養法</p> <p>(7)がん患者の疼痛管理</p> <p>(8)吸引（鼻腔・口腔・気管内吸引）</p> <p>(9)気管カニューレ挿入・人工呼吸器装着時のケア</p> <p>(10)腹膜透析</p> <p>(11)診療に関する技術</p> <p>(12)服薬管理</p> <p>2) 緊急時のケア</p> <p>3 臨床判断の実践</p> <p>1) 根拠と価値観に基づく判断</p> <p>2) 判断を支える力</p> <p>(1) 気づき、解釈、反応、省察</p> <p>3) 意思決定の共有</p>		
評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践2 医学書院 写真でわかる訪問看護 インターメディアカ			

授業科目	地域・在宅看護方法論演習		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	20	2年次後期	北谷 美之
教育目標	在宅看護過程の特性をふまえ、展開方法の実際を学ぶ。		
教育内容	<p>1 在宅看護の展開</p> <p>1) 在宅看護における情報収集とアセスメント</p> <p>(1)在宅療養者の状況 ・健康障害の種類と段階</p> <p>・生活の自立と程度</p> <p>・在宅療養者の在宅療養への考え</p> <p>(2)家族の状況 ・介護者の状況（介護力・在宅療養への考え）</p> <p>・経済的な背景・生活環境</p> <p>2) 在宅看護に多く見られる対象とニーズの理解</p> <p>3) 問題解決法</p> <p>(1)療養者、家族に適した援助技術の工夫</p> <p>(2)看護用品の創意・工夫</p> <p>(3)療養者、家族に適した指導・相談支援</p> <p>(4)活用できる社会支援システムの利用</p> <p>(5)訪問および対応マナー</p> <p>4) 在宅看護活動の実際</p> <p>5) 在宅看護の継続性</p> <p>(1)記録の意義</p> <p>(2)関連機関への連絡調整</p> <p>(3)サービス担当者会議等への参加の必要性</p> <p>6) 在宅看護活動の評価の視点と方法</p> <p>2 事例を用いた看護過程の展開</p> <p>1) 要介護高齢者</p>		
評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤1 地域・在宅看護の実践2 医学書院			

授業科目		母性看護学概論		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	30	1年次後期	青木 洋子 ・ 大内 喜美子	
教育目標	1 母性各期の特徴を知り、母性看護の対象を理解するとともに、母性看護の目的・機能・役割を学ぶ。 2 母性保健における看護の役割を理解する。			
教 育 内 容	<p>1 母性看護の概念</p> <p>1) 母性看護の主な概念 (1)人間の性と生殖 (2)母性の発達 (3)家族の発達課題</p> <p>2) 母性看護に関連する生命倫理 (1)出生前診断 (2)不妊治療 (3)人工妊娠中絶 (4)ハイリスク胎児・新生児の治療 (5)性と生殖に関する権利</p> <p>3) 母性と子どもを支える体制 (1)母性と勤労（関係法規・母子保健法等） (2)地域における子育て支援</p> <p>2 性と生殖に関する身体の機構</p> <p>1) 性周期と生殖機能のメカニズム (1)性周期 (2)性周期とホルモン動態 (3)性反応</p> <p>3 女性のライフサイクルにおける看護</p> <p>1) 思春期にある人々への看護 (1)第二次性徴 (2)心身のアンバランス (3)性教育</p> <p>2) 成熟期にある人々への看護 (1)家族計画 (2)生殖機能（受胎・不妊） (3)性病予防（エイズ）</p> <p>3) 更年期にある人々への看護 (1)ホルモンの変化（更年期障害・閉経） (2)骨粗鬆症の予防</p> <p>4) 老年期にある人々への看護 (1)女性生殖器疾患（老人性陰炎と子宮下垂等）</p>			
評価	筆記試験	提出物	授業態度	
教科書・参考書等				
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院 厚生指針 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

授業科目		妊婦・産婦の看護		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	30	2年次前期	大内 喜美子	
教育目標	新しい家族の誕生期にある妊婦、産婦が健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的知識を理解する。			
教 育 内 容	<p>1 妊婦の看護</p> <p>1) ヒトの発生と遺伝的要因 (1)発生のメカニズム (2)染色体・遺伝子 (3)胎児の発育と生理 (4)妊娠中の胎児の健康状態</p> <p>2) 妊娠期における人々への看護 (1)妊娠の正常経過 (2)妊婦の心理 (3)妊娠と不快感 (4)妊婦の日常生活とセルフケア (5)分娩の準備 (6)親役割 (7)妊婦と発達危機</p> <p>3) 救急救命の迫られる状況にある人々への看護 (1)流産・早産 (2)常位胎盤早期剥離 (3)前置胎盤</p> <p>4) 集中的監視とケアの必要な状況にある人々への看護 (1)妊娠高血圧症候群</p> <p>2 産婦の看護</p> <p>1) 分娩期における人々への看護 (1)分娩の3要素と正常経過 (2)分娩中の胎児の健康維持 (3)産痛のメカニズムと緩和方法 (4)産婦の心理 (5)家族の心理 (6)産婦の発達危機</p> <p>2) 集中的監視とケアの必要な状況にある人々への看護 (1)帝王切開 (2)胎児仮死</p>			
評価	筆記試験	授業態度	提出物	
教科書・参考書等				
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院 ウエルネスからみた母性看護過程 医学書院				

授業科目			
褥婦・新生児の看護			
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次後期	大内 喜美子 ・ 青木 洋子
教育目標	新しい家族の誕生期にある褥婦、新生児が健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的知識を理解する。		
教 育 内 容	<p>1 褥婦の看護</p> <p>1) 産褥期における人々への看護</p> <p>(1)産褥期の正常経過</p> <p>(2)褥婦の心理</p> <p>(3)褥婦の日常生活とセルフケア（母乳栄養の利点）</p> <p>(4)母子・父子関係</p> <p>(5)社会的支援</p> <p>2) 新生児の看護</p> <p>(1)母親への育児技術</p> <p>3) 産褥の異常と看護</p> <p>4) 予期しない状況危機にある人々への看護</p> <p>(1)母子分離、死産</p> <p>2 新生児の看護</p> <p>1) 新生児期の看護</p> <p>(1)正常新生児の生理</p> <p>(2)新生児の成長・発達</p> <p>(3)異常新生児と看護</p> <p>2) 集中的監視とケアの必要な状況にある人々への看護</p> <p>(1)低出生体重児</p>		
評価	筆記試験 提出物 授業態度		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院 ウエルネスからみた母性 看護過程 医学書院 写真でわかる母性看護技術 医学書院			

授業科目			
母性看護方法論演習			
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	3年次前期	大内 喜美子 ・ 青木 洋子
教育目標	<p>1 褥婦、新生児に起こりやすい健康上の課題をアセスメントし、看護援助を計画実施できる能力を習得する。</p> <p>2 妊婦・褥婦、新生児が健康生活を営むための母性看護技術を習得する。</p>		
教 育 内 容	<p>1 事例展開</p> <p>1) 褥婦に起こりやすい問題</p> <p>(1)消耗性疲労</p> <p>(2)非効果的母乳栄養</p> <p>(3)疼痛</p> <p>(4)合併症の潜在的問題（乳腺炎・子宮復古不全）</p> <p>2) 新生児に起こりやすい問題</p> <p>(1)体温平衡異常リスク状態：低体温・高体温</p> <p>(2)栄養摂取消費バランス異常：必要量以下</p> <p>(3)感染リスク状態</p> <p>(4)合併症の潜在的問題（高ビリルビン血症）</p> <p>2 母性看護技術の演習</p> <p>1) 児心音聴収</p> <p>2) 分娩監視装置の装着と判読</p> <p>3) 褥婦の検温（子宮底の測定）</p> <p>4) 授乳介助（乳房の観察）</p> <p>5) 新生児のバイタルサイン測定</p> <p>6) 沐浴</p> <p>7) 身体計測</p> <p>8) 調乳</p> <p>9) 哺乳</p>		
評価	筆記試験 技術試験 提出物 授業態度		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ ウエルネスからみた母性 看護過程 医学書院			

授業科目	小児看護学概論		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	1年次後期	中田 直美・花部浩市
教育目標	1 小児期の特徴を知り、小児看護の対象を理解するとともに、小児看護の目的・機能・役割を学ぶ。 2 小児保健における看護の役割を理解する。		
教 育 内 容	1 小児看護の特徴と概念 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目標と役割 3) 小児と家族の諸統計 2 子どもの成長・発達 1) 成長発達の原則 2) 小児各期の形態・機能的発達 3) 小児各期の心理・社会的発達 4) 発育・発達の評価 3 家族の特徴とアセスメント 1) 子どもにとっての身家族 2) 家族アセスメント 3) 子どもの虐待と看護 4 子どもと家族を取り巻く社会 1) 児童福祉 2) 母子保健 3) 医療費の支援 4) 予防接種 5) 学校保健		
評価	筆記試験 提出物 授業態度		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児看護概論 医学書院 こどもの病気の地図帳 講談社 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ 厚生生の指標 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			

授業科目	子どもの病気		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	2年次前期	轟 千栄子・藤井 邦裕
教育目標	小児期の主要疾患の病態・症状・診断・治療などの概要を理解し、健康障害をもつ子どもと家族に看護援助を展開する能力を習得する。		
教 育 内 容	小児の主要疾患 1 染色体異常、先天異常 2 新生児疾患 3 代謝性疾患 4 内分泌疾患 5 免疫・アレルギー疾患 6 感染症 7 呼吸器疾患 8 循環器疾患 9 腎・泌尿器疾患 10 消化器疾患 11 血液・造血管疾患 12 悪性新生物 13 神経疾患 14 運動器疾患		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院 こどもの病気の地図帳 講談社			

授業科目	小児看護方法論		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次前期	中田 直美・花部浩市
教育目標	1 子どもの成長・発達と健康増進のための子どもと家族への看護実践について理解する。 2 健康障害をもつ子どもと家族が生活・療養するための看護実践について理解する。		
教 育 内 容	1 健康な子どもの看護 1) 乳児の健康推進のための看護 (1) 乳児の健康増進と安全な環境の提供 (2) 乳児のいる家族への看護 2) 幼児の健康推進のための看護 (1) 幼児の健康増進と安全な環境の提供 (2) 幼児のいる家族への看護 3) 学童の健康推進のための看護 (1) 学童の健康増進とセルフケアの発達 (2) 学童のいる家族への看護 4) 思春期の子どもの健康推進のための看護 (1) 思春期の子どもの健康増進とアイデンティティの確立 (2) 思春期の子どもがいる家族への看護 2 健康障害のある子どもの看護 1) 病気や入院が子どもと家族に与える影響 (1) 病気や入院が子どもと家族に与える影響 (2) ストレスを緩和させるための看護 2) 様々な状況にある子どもと家族への看護 (1) 外来における子どもと家族 (2) 急性期にある子どもと家族 (3) 手術を受ける子どもと家族 (4) 慢性期にある子どもと家族 (5) 終末期にある子どもと家族		
評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児臨床看護総論 医学書院 厚生の指標 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディアカ			

授業科目	小児看護方法論演習		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次後期	中田 直美・病院看護師
教育目標	1 小児に起こりやすい健康上の問題をアセスメントし、看護援助を計画実施できる能力を習得する。 2 健康障害をもつ子どもの療養生活に必要な小児看護技術を習得する。		
教 育 内 容	1 様々な状況にある子どもと家族への看護 1) 検査や処置を受ける子どもと家族 (1) 子どもにとっての検査・処置体験 (2) 検査・処置の前・中・後の観察と安全・安楽への援助 (3) 様々な検査・処置を受ける子どもの看護 ①身体計測 ②与薬 ③輸液管理 ④検体採取 (採血, 採尿, 骨髄穿刺, 腰椎穿刺) ⑤吸引 ⑥吸入 ⑦洗腸 ⑧抑制 2) 障害のある子どもと家族への社会的支援 3) 急性期にある子どもと家族 (1) アセスメント (2) 対象の全体像の把握 (3) 対象の健康上の課題の明確化と優先順位の決定 (4) 優先順位の高い健康上の問題の看護計画の立案 (事例: 幼児期にある気管支喘息の子どもと家族) 4) 救急処置が必要な子どもと家族 (1) 子どもの事故の特徴 (2) 主な事故・外傷と看護 5) 子どものアセスメント (1) アセスメントに必要な技術 ①コミュニケーション ②バイタルサイン (2) 身体的アセスメントの実際		
評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院 こどもの病気の地図帳 講談社 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディアカ			

老年看護学概論			
授業科目	単位	時間	開講時期
担当講師名			
1	30	1年次後期	森川 直子 ・ 中前 佐知子
教育目標	1 老年期の身体的・社会的・心理的变化を学び、老年看護の対象の生き方・価値観を理解して関心を深める。 2 高齢者を取り巻く保健医療福祉の動向と社会情勢等の社会環境を理解できる。		
教 育 内 容	1 老年期の基礎的技術 <ul style="list-style-type: none"> 1) 老年看護の学ぶ入り口 <ul style="list-style-type: none"> (1) 高齢者を知る (2) 老いのイメージ 2) 「老いる」ということ <ul style="list-style-type: none"> (1) 加齢と老化 (2) 加齢に伴う身体的側面の変化 (3) 加齢に伴う心理的側面の変化 (4) 加齢に伴う社会的側面の変化 3) 老いを生きるということ <ul style="list-style-type: none"> (1) 高齢者の定義 (2) 発達と成熟 2 超高齢社会と社会保障 <ul style="list-style-type: none"> 1) 超高齢社会の統計的輪郭 <ul style="list-style-type: none"> (1) 超高齢社会の現況 (2) 高齢者と家族 (3) 高齢者の健康 (4) 高齢者の死亡 (5) 高齢者の暮らし 2) 高齢社会における保健医療福祉の動向 <ul style="list-style-type: none"> (1) 高齢者にかかわる保健医療福祉システムの構築 (2) 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 3) 高齢者の権利擁護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 高齢者に対するスティグマと差別 (2) 高齢虐待 (3) 身体拘束 (4) 権利擁護のための制度 3 老年看護のなりたち <ul style="list-style-type: none"> 1) 老年看護の定義 (2) 老年看護の役割 3) 老年看護における理論・概念 (4) 老年看護に携わる者の責務 4 高齢者のヘルスアセスメント <ul style="list-style-type: none"> 1) ヘルスアセスメントの基本 <ul style="list-style-type: none"> (1) ヘルスアセスメントの枠組み (2) 高齢者総合機能評価 (CGA) (3) 日常生活動作 (ADL) ・ 手段的日常生活動作 (IADL) (4) 国際生活機能分類 (ICFモデル) 2) 身体の高齢変化とアセスメント 		
評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等			
系統看護学講座	専門分野	老年看護学	医学書院
系統看護学講座	専門分野	老年看護 病態・疾患論	医学書院
国民衛生の動向			厚生労働統計協会

老年看護方法論 I			
授業科目	単位	時間	開講時期
担当講師名			
1	30	2年次前期	森川 直子 ・ 中前 佐知子
教育目標	1 加齢に伴う健康障がいの特徴を理解し、その看護を理解する。 2 高齢者が生活する場の特徴を踏まえた看護、家族支援ならびに多職種連携・社会資源の活用・看護師の役割について学ぶ。		
教 育 内 容	1 高齢者の生活機能を整える看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 日常生活を支える基本的活動 <ul style="list-style-type: none"> (1) 基本動作と環境のアセスメント (2) 転倒のアセスメントと看護 (3) 廃用症候群のアセスメントと看護 (4) 食事・食生活のアセスメントと看護 (5) 排泄のアセスメントと看護 (6) 清潔・身支度のアセスメントと看護 (7) 生活リズムのアセスメントと看護 (8) コミュニケーションと看護 (9) セクシュアリティのアセスメントと看護 (10) 社会参加 (11) 住環境 2 生活・療養の場における看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 高齢者とヘルスプロモーション 2) 保健医療福祉施設および居住環境における看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 介護保険施設 (2) 地域密着型サービス (3) 住まい 3) 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 家族の健康と生活 (2) 家族への看護 4) 多職種連携実践による活動 		
評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等			
系統看護学講座	専門分野	老年看護学	医学書院
系統看護学講座	専門分野	老年看護 病態・疾患論	医学書院
写真でわかる高齢者ケア			インターメディアカ

授業科目			
老年看護方法論Ⅱ			
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次前期	山本 吏・田本 奈津恵・酒井美奈
教育目標	1 健康障がいがある高齢者の看護の視点と自立生活の実現・維持に焦点をあてた看護の基本を理解し、老年期の特徴を踏まえた看護援助の技法を考え理解する。 2 最期までその人らしい生活の実現・維持につなげるための看護援助について学ぶ。		
教 育 内 容	<p>1 健康逸脱からの回復を促す看護</p> <p>1) 症候のアセスメントと看護 (1)発熱 (2)痛み (3)掻痒 (かゆみ) (4)脱水 (5)嘔吐 (6)浮腫 (7)倦怠感 (8)褥瘡・スキン-テア (9)フレイル</p> <p>2) 身体疾患のある高齢者の看護 (1)脳卒中 (2)パーキンソン病・パーキンソン症候群 (3)肺炎 (4)骨粗鬆症 (5)骨折 (6)褥瘡</p> <p>3) 認知症機能障害のある高齢者の看護 (1)うつ (2)せん妄 (3)認知症</p> <p>2 治療を必要とする高齢者の看護</p> <p>1) 検査を受ける高齢者の看護 2) 薬物療法を受ける高齢者の看護 3) 手術を受ける高齢者の看護 4) リハビリテーションを受ける高齢者の看護 5) 入院治療を受ける高齢者の看護</p> <p>3 エンドオブライフケア</p> <p>1) エンドオブライフケアの概念 2) 「生きる」ことを支えるケア 3) 意思決定への支援 4) 末期段階に求められる援助</p> <p>4 高齢者のリスクマネジメント</p> <p>1) 高齢者と医療安全 2) 高齢者と救命救急 3) 高齢者と災害</p>		
評価	筆記試験	提出物	授業態度
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門分野 老年看護学		医学書院	
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論		医学書院	

授業科目			
老年看護方法論演習			
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	20	2年次後期	森川 直子
教育目標	健康を障がいされた高齢者とその家族に対して健康課題や日常生活機能に及ぼす影響について総合的に捉え、健康な生活を維持するための看護過程について理解する。		
教 育 内 容	<p>1 高齢者の日常生活に焦点をあてたアセスメント</p> <p>1) 加齢と健康や障害の状態から高齢者に起こりやすい健康上の課題に対応する看護 (1)健康認識・健康管理 (2)栄養・代謝 (3)排泄 (4)活動・運動 (5)睡眠・休養 (6)認知・知覚 (7)自己認知・自己概念 (8)役割・関係 (9)性機能 (10)コーピング (11)価値・信念</p> <p>2) 加齢と健康や障害の状態から高齢者に起こりやすい健康上の課題に対応する看護 (1)転倒 (2)摂食・嚥下障害 (3)排尿・排便障がい (4)睡眠障害 (5)身体可動性の障がい (6)低栄養・体液量の不足(脱水) (7)血圧調節障がい (8)楽しみ・生きがい (9)不安・孤独 (10)経済生活</p> <p>2 事例から学ぶ高齢者の看護</p> <p>1) パーキンソン病患者の看護</p> <p>3 看護技術</p> <p>1) 点眼技術</p>		
評価	提出物	授業態度	
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門分野 老年看護学		医学書院	
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論		医学書院	
写真でわかる高齢者ケア		インターメディカ	

授業科目	成人看護学概論		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	1年次後期	細川 和恵・山本 瑠莉子
教育目標	1 成人各期の特徴を知り、成人に特有な健康問題を理解するとともに、健康保持増進、疾病の予防に向けた看護実践について理解する。 2 身体機能の変調に合わせた看護の概要を理解する。		
教 育 内 容	1 成人とは 1) 「成人」とは (1)成人の定義 (2)成人の理解の視座 2) 成人期の特徴 (1) 成人の心身の特徴と変化 (2) ライフサイクルからみた成人期の特徴と発達課題 (3) 社会の相互作用からみた成人期の特徴 (4) 文化の中で生きる成人 2 成人をとりまく今日の状況 1) 家族をめぐる状況 2) 仕事をめぐる状況 3) 日常生活スタイルの変化 4) 環境問題の深刻化 5) 死生観の変容 3 成人期にある人の健康 1) 健康とは 2) 成人保健と今日の健康動向 3) 保健・医療・福祉政策と今日の健康課題 4) 生活習慣に関連する健康障害 — 生活習慣病 5) 職業に関連する健康障害—職業疾患 6) 生活ストレスに関連する健康障害 7) セクシュアリティ・更年期に関連する健康障害 4 成人期にある人を看護するための基本的な考え方 1) 関係を結ぶ 2) 適応を促す 3) 発達を促進する 4) 統合を支援する 5 健康状態に応じた看護 1) ヘルスプロモーション、ヘルスプロテクション 2) 健康状態が急激に変化し、急性の状態にある人への看護 3) 生活機能障害を有する人への看護（リハビリテーション看護） 4) 慢性的な経過をたどる健康障害を有する人への看護 5) 人生の最期のときを迎える人への看護		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等			
専門分野 成人看護学総論 成人看護学1 国民衛生の動向		医学書院 厚生労働統計協会	

授業科目	成人看護方法論Ⅰ演習（慢性期看護）		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次前期	川端 望・菅野則之・中前佐知子
教育目標	慢性期にある患者のアセスメントと援助方法を理解する。		
教 育 内 容	1 慢性疾患を持つ対象の理解と慢性期看護の特徴 2 内分泌疾患患者の看護 1) 内分泌疾患患者の看護 2) 下垂体疾患患者の看護 3) 甲状腺疾患患者の看護 4) 副甲状腺疾患患者の看護 5) 副腎疾患患者の看護 3 代謝疾患患者の看護 1) 糖尿病患者の看護 2) 脂質異常症患者の看護 4. 内部環境調節障害をもつ患者の看護 1) 体液調節機能の観察とアセスメント (1) 浮腫・脱水の観察法 (2) 水分出納、身体所見、血液検査の正常性 (3) 体液不均衡の程度と原因、腎不全の病期 (4) 心身・日常生活への影響 2) 体液調節障害の主な看護 (1) 慢性腎不全の病期に応じた生活指導 (2) 透析療法を受ける患者の看護 ①透析療法の適用基準と選択 ②血液透析・腹膜透析の管理 ③シャントの管理と患者教育 ④維持透析の生活指導 3) 事例 慢性腎不全患者の看護 5 アレルギー・膠原病患者の看護 1) 免疫のしくみとアレルギー 2) 自己免疫疾患と機序 3) 疾患看護 (1)関節リウマチ患者の看護 (2)全身性エリテマトーデス患者の看護 (3)全身性強皮症患者の看護 (4)多発性筋炎・皮膚筋炎患者の看護 (5)シェーグレン症候群患者の看護 (6)ベーチェット病患者の看護 6 事例による看護展開 1) 慢性閉塞性肺疾患（COPD）のある患者の看護 7 看護技術 1) 血糖測定		
評価	筆記試験 提出物 授業態度		
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門分野 内分泌・代謝 系統看護学講座 専門分野 腎・泌尿器 系統看護学講座 専門分野 アレルギー・膠原病・感染症		医学書院 医学書院 医学書院	

授業科目 成人看護方法論Ⅱ演習（急性期看護）			
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次前期	崎田透・濱崎圭吾・中河 健一
教育目標 急性期にある患者のアセスメントと援助方法を習得する。			
教 育 内 容	1 急性期にある患者の看護 1) 救急患者の特徴 2) 救急患者家族の特徴 2 救急患者の観察とアセスメント 3 主要病態に対する救急処置と看護 1) 心肺停止状態への対応 2) 意識障害への対応 3) 呼吸障害への対応 4) ショック・循環障害への対応 5) 急性腹症への対応 6) 泌尿器・生殖器障害への対応 7) 体液・代謝異常への対応 8) 体温異常への対応 9) 外傷への対応 10) 熱傷への対応 4 呼吸機能障害をもつ患者の看護 1) 呼吸器疾患看護の特徴 2) 呼吸器の構造と機能 3) 症状に対する看護 (1) 喀痰 (2) 血痰・喀血 (3) 咳嗽 (4) 胸痛 (5) 呼吸困難 4) 検査を受ける患者の看護 (1) 内視鏡検査 (2) 肺組織生検 5) 治療・処置を受ける患者の看護 (1) 吸入療法を受ける患者の看護 (2) 人工呼吸器を装着する患者の看護 (3) 気管切開を受ける患者の看護 (4) 手術を受ける患者の看護 6) 疾患をもつ患者の看護 (1) 肺炎 (2) 肺塞栓症 (3) 肺がん (4) 結核 (5) 慢性閉塞性肺疾患 5 循環障害をもつ患者の看護 1) 循環器疾患患者の特徴 (1) 患者の特徴 (2) 看護の役割 (3) 疾患の経過と看護 2) 循環器の構造と機能 3) 症状とその病態生理 4) 検査と治療・処置 (心電図モニター、標準12誘導心電図) 5) 疾患の理解 (1) 狭心症 (2) 心筋梗塞 6) 検査を受ける患者の看護 (1) 心臓カテーテルを受ける患者の看護 (2) 心臓手術を受ける患者の看護 (3) 心臓リハビリテーション看護 7) 症状に対する看護 (1) 心不全患者の看護 (2) 血圧異常患者の看護 (3) 不整脈患者の看護 8) 疾患を持つ患者の看護 (1) 弁膜症 (2) 心筋疾患 (3) 動脈疾患 (4) 静脈疾患 (5) 先天性疾患 6 心肺蘇生法・気管切開・気管内挿管時の援助（吸引） 標準12誘導心電図装着時の看護		
	評価	筆記試験 提出物 授業態度	
教科書・参考書等 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 循環器 医学書院			

授業科目 成人看護方法論Ⅲ演習（周手術期看護）			
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次前期	谷口隆行・高橋弘美・山崎道恵・高井香織
教育目標 周手術期にある患者のアセスメントと援助方法を習得する。			
教 育 内 容	1 周手術期にある患者の看護 1) 周手術期にある患者の特徴 2) 周手術期にある患者の家族の特徴 3) 周手術期看護とは 2 手術前期の看護 3 手術期の看護 4 手術後期の看護 1) 術後合併症のアセスメントと看護 2) 早期離床の促進 3) 日常生活の援助と心理的援助 5 退院に向けた指導・支援 6 消化・吸収障害をもつ患者への看護 1) 消化器疾患患者の特徴 (1) 患者の特徴 (2) 看護の役割 (3) 疾患の経過と看護 2) 手術療法を受ける患者の看護 (1) 開腹手術 (2) 内視鏡下手術 (3) ストーマ造設術を受ける患者の看護 3) 肝臓・胆嚢疾患患者の看護 7 看護技術 (1) 術後ベッド作成 (2) 術後1日目の看護援助 ①術後合併症フィジカルアセスメント ②包帯法、弾性ストッキング着用 ③ストーマ管理技術		
	評価	筆記試験 提出物 授業態度	
教科書・参考書等 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 消化器 医学書院 急性期看護Ⅰ概論 周手術期看護 南江堂 周手術看護学習ワークブック メヂカルフレンド社 写真でわかる臨床看護技術② インターメディアカ			

授業科目	成人看護方法論Ⅳ演習（リハビリテーション看護）		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次後期	飛田恵 ・ 川江 辰徳・ 森下弘子・ 細川和恵
教育目標	リハビリテーションの特徴を理解し看護を展開するための基本を理解をする。		
教育内容	<p>1 リハビリテーション看護</p> <p>1) リハビリテーション看護の定義と専門化</p> <p>2) リハビリテーション看護の対象</p> <p>3) リハビリテーション看護の方法</p> <p>2 運動機能障害をもつ患者の看護</p> <p>1) 運動器疾患患者の看護の特徴</p> <p>(1)患者の特徴 (2)看護の役割 (3)疾病の経過と看護</p> <p>2) 援助のためのおもな知識と技術</p> <p>(1)日常生活動作 (2)良肢位 (3)離床訓練 (4)生活の調整</p> <p>3) 症状に対する看護</p> <p>(1)神経麻痺 (2)循環障害とフォルクマン拘縮 (3)疼痛</p> <p>(4)感染 (5)深部静脈血栓</p> <p>4) 検査を受ける患者の看護</p> <p>(1)脊髄造影検査 (2)運動機能検査</p> <p>5) 保存療法を受ける患者の看護</p> <p>(1)ギプス固定を受ける患者の看護 (2)副子固定時</p> <p>(3)牽引療法 (4)手術療法を受ける患者</p> <p>6) 経過に応じた患者の看護</p> <p>7) 疾患を持つ患者の看護</p> <p>(1)大腿骨頸部骨折 (2)骨折 (3)人工関節置換術</p> <p>(4)腰椎椎間板ヘルニア</p> <p>3 脳・神経疾患障害をもつ患者の看護</p> <p>1) 脳・神経疾患患者の看護の特徴</p> <p>(1)患者の特徴 (2)看護の役割 (3)疾病の経過と看護</p> <p>2) 脳・神経系の構造と機能</p> <p>3) 症状・障害をもつ患者の看護</p> <p>(1)意識障害 (2)運動機能障害 (3)高次機能障害</p> <p>(4)頭蓋内圧亢進 (5)髄膜刺激症状 (6)認知症患者の看護</p> <p>4) 検査・治療・処置を受ける患者の看護</p> <p>(1)髄液検査時の看護 (2)手術（開頭術）を受ける患者の看護</p> <p>5) 疾患をもつ患者の看護</p> <p>(1)脳梗塞患者の看護 (2)脳腫瘍患者の看護</p> <p>(3)くも膜下出血患者の看護 (4)下垂体腺腫の摘出術後の看護</p> <p>(5)脊髄損傷の看護</p> <p>4 事例による看護展開</p> <p>1) 中枢神経系（脊髄損傷）のある患者の看護</p> <p>急性期・回復期の看護</p>		
評価	筆記試験 提出物 授業態度		
教科書・参考書等	系統看護学講座 専門分野 脳・神経 運動器 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護学 医学書院		

授業科目	成人看護方法論Ⅴ演習（がん看護、終末期看護）		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次後期	黒氏 美紀 ・ 藤本有紀子・ 戸田 秀之・ 山本瑠莉子
教育目標	終末期にある患者、がん患者と家族の特徴を理解し看護を展開するための基本的な理解をする。		
教育内容	<p>1 全人的ケアの実践</p> <p>1) 身体的ケア</p> <p>2) 心理的ケア</p> <p>3) 社会的ケア</p> <p>4) スピリチュアルケア</p> <p>2 がん患者と家族への看護</p> <p>1) がん患者の抱える苦痛</p> <p>2) がん患者の生活上の困難</p> <p>3) がん患者の治療と看護</p> <p>(1)化学療法 (2)放射線療法 (3)集学的治療</p> <p>4) がん患者の社会参加への支援</p> <p>3 血液・造血器疾患患者の看護</p> <p>1) 看護の特徴</p> <p>(1)患者の特徴 (2)看護の役割</p> <p>2) 貧血のある患者の看護</p> <p>3) 出血傾向のある患者の看護</p> <p>4) 白血病患者の看護</p> <p>5) 造血幹細胞移植を受ける患者の看護</p> <p>6) 悪性リンパ腫の看護</p> <p>4 臨死期のケア</p> <p>1) 臨死期の概念とケアの目標</p> <p>2) 臨死期における全人的苦痛の緩和</p> <p>3) 死亡前後のケア</p> <p>4) 急変時のケア</p> <p>5 事例による看護展開</p> <p>1) 悪性リンパ腫 2) 乳がん（終末期） 3) 消化器のがん</p>		
評価	筆記試験 提出物 授業態度		
教科書・参考書等	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 血液・造血器 医学書院		

授業科目	臨床看護技術演習		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	2年次後期	細川 和恵・森川 直子
教育目標	1 医療システムの中の危機要因を知り、診療補助技術における事故防止のための知識・技術を習得できる。 2 安全な看護を提供するための気づく感性、考える力と判断できる能力、適切なコミュニケーション能力を養う。		
教育内容	1 安全・安楽な静脈血採血 1) 手順に従った適切な静脈血採血 2) 患者に配慮した声掛け 2 安全・安楽な点滴静脈内注射 1) 手順に従った適切な輸液の管理 2) 患者に配慮した声掛け 3) 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い・アラームに対する適切な対応 3 安全・安楽な一時的吸引 1) 手順に従った適切な口腔内吸引 2) 患者に配慮した声掛け 4 成人に対するBLS/CPRの基本 5 人工呼吸器 1) 手順に従った適切な人工呼吸療法 2) 患者に配慮した声かけ 3) 人工呼吸器の取り扱い・アラームに対する適切な対応 6 多重課題状況下における事故防止 1) 多重課題の発生予測 2) 優先順位の決定 3) 応援要請 4) 解決方法の決定 5) 解決方法の実施 6) 患者に配慮した声掛け		
評価	筆記試験	技術試験	提出物 授業態度
教科書・参考書等	基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 写真でわかる実習で使える基礎看護技術 インターメディカ		

授業科目	看護管理		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	30	3年次後期	本橋 敏美・船山 真理子・平岡 美幸・種谷 敦子
教育目標	1 チーム医療および他職種との協働のなかで看護師としてのメンバーシップやリーダーシップを理解する。 2 看護マネジメントできる基礎的能力を養う。		
教育内容	1 看護管理の目的と過程 1) 管理とは 2) 看護管理とは 2 看護管理と法制度 1) 看護職の定義 2) 看護職と法 3) 職業倫理 4) 教育制度 5) 医療制度 6) 看護政策と制度 3 看護の役割と管理 1) 患者の権利の尊重 2) 安全管理 4 病院看護管理 1) 看護組織 2) 看護部職員の職務 3) 看護単位とその運営 4) 看護評価 5) 看護専門職 5 看護実践マネジメント 1) 医療チームの一員としてのマネジメント (1)医療の場の構造 (2)看護師のチームワークとコミュニケーション (3)薬剤・物品の管理 (4)多職種のチームワークとコミュニケーション 2) 業務遂行のためのマネジメント (1)1日の業務の組み立て (2)多重課題への対処 3) 看護職自身のマネジメント (1)看護職の健康管理 (2)キャリア設計		
評価	筆記試験		
教科書・参考書等	基礎看護学① 看護学概論 MCメディカ出版 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社 看護者の基本的責務 日本看護協会出版会		

授業科目		看護研究		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	30	2年次後期	青木 洋子 他専任教員	
教育目標	看護に対する理解を深めるとともに、研究的態度や看護を論理的・科学的に考える能力を養う。			
教 育 内 容	<p>1 看護研究の基礎知識</p> <p>1) 看護研究とは</p> <p>2) 看護研究の種類</p> <p>3) 看護研究における倫理</p> <p>4) 文献検索の意義と目的方法</p> <p>2 研究の進め方</p> <p>1) 研究の過程</p> <p>2) 研究の枠組みを設定する</p> <p>3) 研究方法を決定する</p> <p>4) 研究計画書を書く</p> <p>3 研究のまとめ方</p> <p>4 ケース・レポートの作成</p> <p>1) ケース・レポート作成にあたっての倫理的態度</p> <p>2) ケース・スタディを行うにあたっての原則</p> <p>3) ケース・レポートの企画と準備</p> <p>4) 文献の活用法</p> <p>5) ケース・スタディ作成の原則にそってケースレポートをまとめる。</p> <p>5 発表</p>			
評価	提出物 授業態度			
教科書・参考書等				
わかりやすいケーススタディの進め方		照林社		

授業科目		災害看護		
単位	時間	開講時期	担当講師名	
1	15	2年次後期	菅野 則之 他	
教育目標	災害看護の基礎を理解し、災害時における基礎的実践能力を養う。			
教 育 内 容	<p>1 災害看護の基礎</p> <p>1) 災害看護の必要性</p> <p>2) 災害の定義</p> <p>3) 災害の分類</p> <p>(1) 自然災害 (2) 人為的災害 (3) 特殊災害 (4) 複合災害</p> <p>4) 災害時の支援体制と医療体制</p> <p>(1) 災害医療 (2) 災害拠点病院</p> <p>5) 災害看護とは</p> <p>6) 災害サイクルと必要とされる看護</p> <p>(1) 災害サイクルとその特徴</p> <p>(2) 災害各期における保健医療の役割と看護</p> <p>(3) 災害各期における要援護者への看護</p> <p>7) 災害看護に必要な知識と技術</p> <p>8) 災害と法律</p> <p>9) 災害に対する医療機関の準備</p> <p>10) 看護師としての準備</p>			
評価	筆記試験 提出物			
教科書・参考書等				
基礎看護学① 看護学概論 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学			MCメディカ出版 医学書院	

授業科目	医療安全		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	15	3年次前期	谷田部 美千代
教育目標	医療安全について理解し、安全な看護実践が出来る基礎的能力を養う。		
教育内容	<p>1 医療安全</p> <p>1) 医療安全の基本的考え方</p> <p>(1) 医療安全に関する用語の定義</p> <p>(2) ヒューマンエラーと対策</p> <p>(3) 国の医療安全対策</p> <p>(4) 組織としての医療安全対策</p> <p>(5) 医療事故に伴う看護職の法的責任と看護職賠償責任保険制度</p> <p>2 「危険の種類」別にみた医療安全対策</p> <p>1) 看護師が関与した医療事故やヒヤリ・ハット</p> <p>2) 危険（インシデント）の種類による医療安全対策</p> <p>3) 基本的な医療関連感染対策</p>		
評価	筆記試験 提出物		
教科書・参考書等			
看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社			

授業科目	基礎看護学実習 I		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	45	1年次前期	実習病院指導者・専任教員
教育目標	多様な看護の場を知り、看護の役割を学ぶとともに対象とのコミュニケーションを学ぶ。		
教育内容	<p>1 看護の場と対象（在宅、医療施設、保健・福祉施設における活動）</p> <p>1) 健康管理センター</p> <p>2) 診療所・クリニック</p> <p>3) 病院の外来</p> <p>4) 病院の病棟（慢性期・急性期）</p> <p>5) 保健福祉施設</p> <p>6) 訪問看護ステーション</p> <p>2 コミュニケーション</p> <p>1) 対象とのコミュニケーション</p> <p>2) 看護における基本的コミュニケーション</p> <p>3 看護の役割</p> <p>4 看護者として望ましい態度</p> <p>1) 看護者・学習者として責任と自覚を持った行動</p> <p>2) グループメンバーとの協調性</p> <p>3) 心身の健康管理</p> <p>4) 自己課題の明確化と主体的な実習姿勢</p> <p>5) 日々の振り返り</p>		
評価	学習内容 実習内容 実習態度 提出物		
教科書・参考書等			
ナースング・グラフィカ 看護学概論 基礎看護学① メディカ出版 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社			

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ		
単位	時間	開講時期	担当講師名
2	90	1年次後期	実習病院指導者・専任教員
教育目標	1 基本技術ならびに、日常生活の援助技術を学ぶ。 2 健康状態のアセスメントに必要な情報収集と情報の分析・解釈を学ぶ。 3 看護におけるフィジカルアセスメントを学ぶ。		
教 育 内 容	1 対象の理解 <ul style="list-style-type: none"> 1) 対象と良好な人間関係を成立させるためのコミュニケーション 2) 基本的ニーズの観察と充足状態の判断 <ul style="list-style-type: none"> (1)客観的・主観的情報の収集、フィジカルアセスメント (2)情報の整理、分析・解釈・統合 <ul style="list-style-type: none"> ①健康知覚－健康管理 ②栄養－代謝 ③排泄 ④活動－運動 ⑤睡眠－休息 ⑥認知－知覚 ⑦自己知覚－自己概念 ⑧役割－関係 ⑨セクシュアリティ－生殖 ⑩コーピング－ストレス耐性 ⑪価値－信念 		
	2 基本的ニーズ充足状態に応じた日常生活の援助 <ul style="list-style-type: none"> 1) 基本技術、日常生活援助の実施 2) 実施した援助の評価 		
	3 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割 <ul style="list-style-type: none"> 1) 病院における看護の役割 		
	4 看護者として望ましい態度		
評価	学習内容	実習内容	実習態度 提出物
教科書・参考書等			
新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 写真でわかる実習で使える看護技術 インターメディカ 新体系 看護学全書 別巻15 看護技術の患者への適用 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 医学書院			

授業科目	基礎看護学実習Ⅲ		
単位	時間	開講時期	担当講師名
2	90	2年次後期	実習病院指導者・専任教員
教育目標	健康障害を持った対象を理解し、科学的思考に基づいた看護援助の方法を学ぶ。		
教 育 内 容	1 健康障害のある対象の理解 <ul style="list-style-type: none"> 1) 対象の成長発達段階の特徴 2) 対象の健康障害の特徴 3) 対象の経過別の特徴 4) 対象の検査治療処置の特徴 5) 対象の生活行動様式と発達段階及び健康障害、検査治療処置との関連 		
	2 アセスメント <ul style="list-style-type: none"> 1) 客観的・主観的情報の系統的な収集 2) 情報の整理、分析・解釈・統合 3) 看護課題の明確化と優先順位の判断 		
	3 看護計画 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護目標の立案 2) 解決策の立案 		
	4 実施 <ul style="list-style-type: none"> 1) 計画に基づき看護を実施 2) 対象の状態に合わせて、安全・安楽・自立／自律に留意した実施 		
	5 評価 <ul style="list-style-type: none"> 1) 実施した看護音結果を評価、必要な報告・記録 2) 評価に基づいた計画の修正 		
	6 対人技法を用いた、信頼関係の形成に必要なコミュニケーション		
	7 看護者として望ましい態度 <ul style="list-style-type: none"> 1) 対象者の尊厳を守る意義を理解し、価値観、生活習慣、慣習、信条を尊重した行動 2) 守秘義務、個人情報の保護 3) 看護者としての基本的態度 		
評価	学習内容	実習内容	実習態度 提出物
教科書・参考書等			
新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 写真でわかる実習で使える看護技術 インターメディカ 新体系 看護学全書 別巻15 看護技術の患者への適用 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院			

授業科目	老年看護学実習Ⅰ		
単位	時間	開講時期	担当講師名
2	90	2年次前期	実習施設看護師・専任教員
教育目標	1 地域で生活している高齢者の特徴と看護の役割・機能について学ぶ。 2 高齢者の地域での活動の実際から、高齢者の健康の維持、疾病予防に向けた看護の役割・機能を理解する。 3 高齢者の生活を支える社会資源の活用について学ぶ。		
教 育 内 容	1 高齢者の理解 1) 地域で主体的に生活している高齢者の特徴と多様な生活 2) 高齢者とのコミュニケーションの体験 2 加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化の理解 1) 対象の実際の生活場面から加齢に伴う身体的・心理的機能・社会的役割の変化について 3 高齢者の生活を支える日常生活援助 1) 日常生活機能の低下に合わせた援助 (1)呼吸・循環 (2)食事 (3)排泄 (4)活動と休息 (5)清潔 (6)感覚 (7)環境 4 老年看護における看護の役割と機能の理解 1) 介護老人保健施設・介護老人福祉施設における機能 2) 介護老人保健施設・介護老人福祉施設における看護の役割 5 高齢者を対象とした社会資源の活用の理解 1) デイケア・デイサービスの実際 6 老年看護における看護者として望ましい態度 1) 自己の老年観 2) 高齢者を尊重した態度 3) 看護者としての基本的態度		
評価	学習内容	実習内容	実習態度 提出物
教科書・参考書等			
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論		医学書院 医学書院

授業科目	老年看護学実習Ⅱ		
単位	時間	開講時期	担当講師名
2	90	3年次前期	実習病院指導者・専任教員
教育目標	1 疾病や障がいを持ちながら療養生活を送る高齢者とその家族に対し、健康レベルに応じた看護を実践できる能力を培う。 2 自己の老年観・看護観・死生観を培い、自己の役割を認識し、行動する。		
教 育 内 容	1 健康障害を持つ高齢者とその家族の理解 1) 高齢者の疾病をめぐるとの特徴 2) 加齢と疾病による患者の身体的・精神的・社会的側面の変化 3) 健康障がいが高齢者の生活に及ぼす影響 4) 患者に起こりやすい健康上の課題 5) 患者の健康上の課題の明確化 6) 患者家族が抱える課題・起こりやすい課題 2 健康障がいをもつ高齢者とその家族に対する看護援助の実際 1) 健康状態を継続的に観察し、いつもと異なる変化を捉える 2) 目指しうる最大限の生活機能の回復を促す支援方法 3) 専門職種、関連機関への連絡・調整を図る必要性 4) 家族のニーズに応じた支援の必要性 5) 対象及び家族の意思決定に対する意欲への支援 6) 受け持ち患者に対するQOLの維持・向上 7) 根拠に基づいた看護援助の実践、追加・修正・評価 3 老年看護における看護の機能と役割 1) 老年看護の実践的な役割 4 老年看護における看護者として望ましい態度 1) 高齢者を尊重した態度 2) 自己の老年観・看護観・死生観 3) 看護者としての基本的態度		
評価	学習内容	実習内容	実習態度 提出物
教科書・参考書等			
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾病論 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 写真でわかる高齢者ケア		医学書院 医学書院 医学書院 インターネットメディア

授業科目	成人看護学実習Ⅰ（急性期）		
単位	時間	開講時期	担当講師名
2	90	3年次前期	実習病院指導者・専任教員
教育目標	急激な健康状態の変化にある患者とその家族の特徴を理解し、健康上の課題の把握と個別に応じた看護援助の方法を学ぶ		
教 育 内 容	<p>1 周手術期にある患者とその家族の特徴</p> <p>1) 手術前にある患者の身体的・心理的特徴と健康上の課題</p> <p>2) 手術期・手術後期にある患者の身体的・心理的特徴と健康上の課題</p> <p>2 周手術期にある患者とその家族に対する看護援助</p> <p>1) 手術前にある患者の看護援助</p> <p>(1) 術前オリエンテーション</p> <p>(2) 手術や麻酔に伴うリスクの低減に向けたケア</p> <p>(3) 術後回復と術後合併症予防のための術前練習</p> <p>(4) 患者の家族への支援</p> <p>(5) 手術前日および当日の看護</p> <p>2) 手術期にある患者の看護援助</p> <p>3) 手術後期にある患者の看護援助</p> <p>(1) 術後の疼痛管理 (2) 創傷管理 (3) 術後合併症の予防</p> <p>(4) 早期離床の促進と日常生活援助 (5) 心理的援助 (6) 退院に向けた支援</p> <p>3 急性の状態にある患者と家族の特徴</p> <p>1) 高度治療下にある患者の身体的・心理的特徴</p> <p>2) 疾病の急性期にある患者の身体的・心理的特徴</p> <p>4 急性の状態にある患者と家族に対して看護援助</p> <p>1) 高度治療下にある患者の看護援助</p> <p>2) 疾病の急性期にある患者の看護援助</p> <p>5 患者と人間関係を基盤とした相互作用</p> <p>6 健康状態が急激な状態にある患者の看護における役割と機能</p> <p>1) 周手術期における看護の役割と機能</p> <p>2) 高度治療下における看護の役割と機能</p> <p>3) 疾病の急性期における看護の役割と機能</p> <p>7 看護師として望ましい態度</p>		
評価	学習内容	実習内容	実習態度 提出物
教科書・参考書等			
	臨床外科看護総論 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 写真でわかる	医学書院 南江堂 インターメディアク	

授業科目	成人看護学実習Ⅱ（慢性期）		
単位	時間	開講時期	担当講師名
2	90	3年次前期	実習病院指導者・専任教員
教育目標	慢性的な経過をたどる、患者と家族の特性を理解し、健康上の課題の把握と個別に応じた看護援助の方法を学ぶ。		
教 育 内 容	<p>1 慢性的な経過をたどる対象とその家族の理解</p> <p>1) 慢性的な経過をたどる対象の病態と治療</p> <p>2) 慢性的な経過をたどる対象の病態と治療が生活に及ぼす影響</p> <p>3) 慢性的な経過をたどる対象の健康上の課題</p> <p>2 慢性的な経過をたどる患者の看護の特徴と役割</p> <p>1) 慢性疾患がある患者と家族の特徴と看護の役割</p> <p>2) リハビリテーション期にある患者と家族の特徴と看護の役割</p> <p>3) がん患者と家族の特徴と看護の特徴と看護の役割</p> <p>4) 緩和ケアを必要とする患者と家族の特徴と看護の役割</p> <p>3 健康障害を有しながらそのひとらしく過ごせるよう生活の質の向上に向けた支援</p> <p>1) セルフケア・自己管理への看護</p> <p>2) 健康障害に対する受容と適応への看護</p> <p>3) 生活の再構築に向けた援助</p> <p>4) 終末期にある患者への援助</p> <p>5) 自分らしく生きることへの援助</p> <p>6) 退院支援</p> <p>7) チームアプローチと社会的支援の獲得への援助</p> <p>4 患者の主体性を尊重した支援関係を構築</p> <p>5 看護師として、望ましい態度</p>		
評価	学習内容	実習内容	実習態度 提出物
教科書・参考書等			
	系統看護学講座 成人看護学 系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座	臨床看護学総論 成人看護学概論 成人看護学 [1]～[15] リハビリテーション看護 臨床検査	医学書院 南江堂 医学書院 医学書院 医学書院

授業科目	母性看護学実習		
単位	時間	開講時期	担当講師名
2	90	3年次前期	実習病院指導者・専任教員
教育目標	1 妊娠・分娩・産褥各期にある母性と家族を対象に健康上の課題の把握と、個別に応じた看護援助の方法を学ぶ。 2 新生児の特徴を理解し、個別に応じた看護援助の方法を学ぶ。		
教 育 内 容	1 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の理解 1) 妊婦の身体的・心理的特徴 2) 産婦の身体的・心理的特徴 3) 褥婦の身体的・心理的特徴 4) 新生児の身体的・生理的特徴 2 母性看護の役割・機能の理解 1) 保健医療チームにおける看護師の役割 2) 母子における継続看護の必要性 3 妊婦・産婦・褥婦および新生児と、その家族に必要な看護援助の理解 1) 妊婦健康診査の目的 2) 妊娠中に行われている検査項目とその意義 3) 妊娠の経過に応じた保健指導の内容 4) 産婦の看護の目的と原則が分かり、必要な援助 5) 褥婦の心身諸機能回復への援助 6) 褥婦の復古促進への援助 7) 褥婦の乳汁分泌促進への援助 8) 退院にむけて褥婦に必要な保健指導の内容 9) 産褥を通して家族への援助 10) 新生児の看護の原則の理解と必要な援助 4 母性看護における看護者としての望ましい態度 1) 実習を通して生命の尊さについて 2) 母子関係の発達過程 3) 看護者としての基本的態度		
評価	学習内容	実習内容	実習態度 提出物
教科書・参考書等 系統看護学講座 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術 インターメディア 写真でわかる小児看護技術 インターメディア ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院			

授業科目	小児看護学実習 I		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	45	2年次後期	実習保育所保育士・特別支援学校教員
教育目標	健康な小児の成長発達の特徴と成長発達に影響を及ぼす諸因子について理解する。		
教 育 内 容	1 健康な小児の理解 1) 小児各期の成長発達の特徴 2) 各年齢における基本的生活習慣の形成状況 2 健全な発育を促すための保育の基本の理解 1) 基本的生活習慣を形成するための援助方法 2) 発達段階を考慮した関わり 3 小児看護を取り巻く現代社会の現状 1) 小児各期に起こりやすい社会問題の現状と社会支援システム 4 小児看護における役割と機能 1) 健康な小児における小児看護の役割と機能 5 看護者としての望ましい態度 1) 看護者、学習者としての責任と自覚 2) チームメンバー間の協働の必要性和行動 3) 心身の健康管理と対処行動 4) 自己の学習課題と明確化と主体的な学習姿勢		
評価	学習内容	実習内容	実習態度 提出物
教科書・参考書等 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院			

授業科目	小児看護学実習Ⅱ		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	45	3年次後期	実習病院指導者・専任教員
教育目標	健康障害を持つ、小児と家族を対象に健康上の課題の把握と個別に応じた看護援助の方法を学ぶ。		
教 育 内 容	<p>1 健康障害のある小児と家族の理解</p> <p>1) 外来を受診する小児と家族の特徴</p> <p>2) 入院中の小児と家族の特徴</p> <p>3) 小児のニーズを理解した働きかけ</p> <p>2 健康障害にある小児とその家族に対する看護援助の実際</p> <p>1) 外来を受診する小児と家族に対する看護援助の実際</p> <p>2) 入院中の小児と家族に対する看護援助の実際</p> <p>3 小児看護における役割と機能の理解</p> <p>1) 小児看護の役割と機能</p> <p>4 看護者としての望ましい態度</p> <p>1) 看護者、学習者としての責任と自覚</p> <p>2) チームメンバー間の協働の必要性と行動</p> <p>3) 心身の健康管理と対処行動</p> <p>4) 自己の学習課題と明確化と主体的な学習姿勢</p>		
評価	学習内容	実習内容	実習態度 提出物
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 子どもの病気の地図帳 写真でわかる小児看護技術		医学書院 医学書院 講談社 インターメディアカ	

授業科目	地域・在宅看護論実習Ⅰ		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	45	3年次後期	実習施設指導者・専任教員
教育目標	1. 地域の人々の健康ニーズに合わせた保健活動の実際を学び、保健・医療・福祉における看護の役割を学ぶ。 2. 地域で安心して過ごすための包括的および継続的な支援の実際を学び、地域における看護の役割を学ぶ。		
教 育 内 容	<p>1 地域における対象の健康状況、生活環境</p> <p>1) 地域住民の健康状況と地域の環境</p> <p>2 地域保健活動と看護専門職者の果たす役割</p> <p>1) 地域における保健衛生活動の概要</p> <p>2) 地域で生活する人々と看護職の役割</p> <p>3 保健施設における看護活動</p> <p>1) 健康相談、健康診査、健康教育の概要</p> <p>2) 保健事業と看護者の役割</p> <p>4 地域包括支援センターにおける看護活動</p> <p>1) 総合的・包括的・継続的ケアの実際</p> <p>2) 地域における看護の役割</p> <p>5 保健・医療・福祉チームの連携と看護活動</p> <p>1) 地域包括ケアの概要</p> <p>2) 地域包括ケアシステムと看護の役割</p> <p>6 在宅看護における看護者としての望ましい態度</p> <p>1) 訪問看護者としての基本的態度</p> <p>2) 看護者としての基本的態度</p>		
評価	学習内容	実習内容	実習態度 提出物
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 国民衛生の動向		医学書院 医学書院 厚生労働統計協会	

授業科目	地域・在宅看護論実習Ⅱ		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	45	3年次後期	実習病院・実習施設指導者・専任教員
教育目標	在宅で療養する人および家族の特徴を理解し、在宅看護の機能と役割、援助の実際について学ぶ。		
教 育 内 容	<p>1 在宅で療養する人とその家族</p> <p>1) 在宅療養者の特徴</p> <p>2) 在宅療養者の家族の特徴</p> <p>2 在宅看護における看護の機能と役割</p> <p>1) 療養者が生活するために必要な在宅支援システムと看護師の役割</p> <p>2) 看護の継続性の意義と看護の機能と役割</p> <p>3) 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割と多機関・多職種との連携</p> <p>3 在宅で療養している人とその家族に対する看護援助の実際</p> <p>1) 在宅看護の方法の実際</p> <p>(1)在宅看護における情報収集とアセスメント</p> <p>(2)在宅看護計画の立案と展開</p> <p>(3)在宅療養者・家族への指導と援助</p> <p>(4)社会資源の活用と支援体制の調整</p> <p>2) 在宅看護の技術の実際</p> <p>(1)日常生活の援助と指導</p> <p>(2)医療処置を伴う看護と指導</p> <p>(3)在宅におけるリハビリテーション看護</p> <p>(4)在宅におけるターミナルケア</p> <p>4 在宅看護における看護者としての望ましい態度</p> <p>1) 療養者・家族を理解するための基本姿勢と尊重した態度</p> <p>2) 看護者としての基本的態度</p>		
評価	学習内容	実習内容	実習態度 提出物
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践 医学書院 写真でわかる訪問看護 インターメディアカ			

授業科目	精神看護学実習Ⅰ		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	45	3年次後期	実習病院指導者・専任教員
教育目標	心を病む者および、精神に障害を持つ患者と家族を対象に、健康上の課題と個別に応じた看護援助の方法を学ぶ。		
教 育 内 容	<p>1 心を病む者および精神に障害を持つ者とその家族の理解</p> <p>1) 心の健康と精神障害者のとらえ方</p> <p>2) 精神障害者の理解と考え方</p> <p>3) 精神科看護における観察の特徴と方法</p> <p>4) 精神科看護における主なアセスメントの視点</p> <p>5) 生育歴・生活歴・家族状況が生活行動に及ぼす影響</p> <p>6) 精神症状ならびに治療が生活行動に及ぼす影響</p> <p>7) 精神障害者を持つ家族関係の重要性</p> <p>8) 精神障害者を持つ家族の心理と社会的影響</p> <p>2 精神看護における看護の役割と機能の理解</p> <p>1) 精神病院における医療サービス・安全管理の実際</p> <p>2) 精神病院における看護の役割と機能</p> <p>3) 精神障害者に対する退院後のサポートシステムの実際と看護</p> <p>3 心を病む者および精神に障害をもつ者と家族に対する看護援助</p> <p>1) 精神障害者の自立と回復を促すための生活環境の調整</p> <p>2) 精神障害者の安全を守るための援助</p> <p>3) 精神科における検査・治療・処置に伴う看護援助</p> <p>4) 精神症状に対する看護</p> <p>4 精神科看護における看護者としての望ましい態度</p> <p>1) 精神障害者を理解するための基本姿勢と自己の行動特性・課題</p> <p>2) 看護者としての基本的態度</p>		
評価	学習内容	実習内容	実習態度 提出物
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学① 精神看護学の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院			

授業科目	精神看護学実習Ⅱ		
単位	時間	開講時期	担当講師名
1	45	3年次後期	実習施設指導者・専任教員
教育目標	精神障害をもつ対象の地域での生活のしづらさを理解し、対象を支える社会資源とサービスの活用について理解を深め、看護の役割を学ぶ。		
教 育 内 容	<p>1 精神障害をもち地域で生活している対象を理解する。</p> <p>1) 精神障害者と生活機能</p> <p>(1) 認知機能障害</p> <p>(2) 対人関係の障害・生活の障害(生活のしづらさ)</p> <p>(3) 社会参加の困難</p> <p>2) 健康的な側面(もっている力)</p> <p>趣味・特技・人柄・対処能力・経済力・アドヒアランス行動</p> <p>友人・住居・仕事・支持的な家族</p> <p>2 精神障害をもつ対象の地域での生活環境を理解する。</p> <p>1) 精神障害をもつ対象の地域生活を支える社会資源とサービス</p> <p>(1) 相談支援</p> <p>(2) 医療にかかわるサービス</p> <p>・ 自立支援医療費 精神科訪問看護 精神科デイケア</p> <p>ACT (包括型地域生活支援プログラム) とアウトリーチ</p> <p>(3) 生活を支えるサービス</p> <p>・ 日中の活動の支援(自立訓練・就労移行支援・就労継続支援)</p> <p>・ 住まいの場(グループホーム・福祉ホーム)</p> <p>・ その他のサービス(居宅介護と同行援護・短期入所・移動支援)</p> <p>(4) 一般就労に向けての支援</p> <p>(5) 当事者のエンパワーメントのためのサービス</p> <p>(セルフヘルプグループ・クラブハウス・家族会)</p> <p>2) 精神障害をもつ対象の地域生活を支える社会資源とサービスの活用の実際</p> <p>3 対象の地域生活を支える社会資源とサービスにおける他職種(機関)との協働について理解する。</p> <p>1) 精神障害をもつ対象の地域生活を支える社会資源とサービスの活用における他職種(機関)との協働</p> <p>・ 精神障害に関する法規と社会資源・サービス・多職種(機関)との協働</p> <p>4 精神科看護における看護者としての望ましい態度</p> <p>1) 精神障害者を理解するための基本姿勢と自己の行動特性・課題</p> <p>2) 看護者としての基本的態度</p>		
評価	学習内容	実習内容	実習態度 提出物
教科書・参考書等			
系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学① 精神看護学の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院 その他			

授業科目	統合実習		
2	90	3年次後期	実習病院指導者・専任教員
教育目標	看護管理の実際を知るとともに、保健・医療・福祉チームの一員として、これまで学んだ知識、技術、態度を統合し、看護実践能力を習得する。		
教 育 内 容	<p>1 病院組織と看護単位における看護管理</p> <p>1) 病院組織と看護管理</p> <p>2) 看護単位と看護管理</p> <p>2 組織における医療安全</p> <p>1) 病院における医療安全管理体制</p> <p>2) 危険因子(組織、病棟)</p> <p>3) 業務量の増加</p> <p>3 複数患者の援助の優先順位の考慮や時間管理の必要性</p> <p>1) 複数患者の援助の優先度の判断</p> <p>2) 複数患者の援助の実施・評価・修正</p> <p>3) 時間の調整</p> <p>4) 適時・適切な人への報告・調整</p> <p>4 夜間の管理体制と業務及び患者の状況</p> <p>1) 夜間の病棟管理体制</p> <p>2) 夜間の業務</p> <p>3) 夜間の患者の状況や反応</p> <p>5 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割と機能</p> <p>1) 看護職種間での協働・連携</p> <p>2) 多職種との協働・連携</p> <p>3) 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割と機能</p> <p>6 看護師としての責任感および倫理観の確立</p> <p>1) 看護における倫理の必要性</p> <p>2) 看護倫理</p> <p>3) 日常ケア場面における倫理</p>		
評価	学習内容	実習内容	実習態度 提出物
教科書・参考書等			
基礎看護学① 看護学概論 MCメディカ出版 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社			